

公益財団法人仙台市市民文化事業団 令和2年度 事業報告書

*新型コロナウイルス感染症の影響によるもの

1定款第4条第1号、第2号、及び第3号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等・備考
(単位:千円)						

(1)芸術文化振興事業

1)ミュージアム等周年記念事業

①せんだいメディアテーク開館20周年記念事業

せんだいメディアテークの開館20周年を記念し実施しました。

1	せんだいメディアテーク開館20周年事業	通年 (一部中止・延期)	メディアテーク	1,648	0	
令和3年1月の開館20周年を機に、同時代性ある新たなメディアテーク像を打ち出していくための事業。						
①せんだいメディアテーク円卓会議「ASSEMBLY」(20周年記念フォーラム part2)(1/23または1/24 オープンスクエア):令和元年度に20周年イベントとして実施した伊東豊雄氏の講演に続く、20周年を記念するフォーラムの第2弾。メディアテークのコンセプトとなる3憲法に基づきながらも、時代の変遷を踏まえたより具体的な活動の方向性を、これまでメディアテークに関わったさまざまな有識者、アーティスト、市民を招き、ともに円卓を囲み、検討する予定だったが、中止した*。 ②記念誌発行のための編集作業(通年):全国の書店に流通する書籍として、20周年記念誌を作成するための編集作業は、関連するフォーラムや展覧会の中止もあり、次年度へ延期した*。 ③ラウンジ展示「せんだいメディアテーク・クロノロジー 2001-2021」(1/8~3/23 7階ラウンジ):メディアテークのこれまでの取り組みを俯瞰視し、今後の展開を構想しやすくすることを目的に、建設期から現在までの様々な出来事を、写真、映像、資料、などでとり、クロノロジー(年表)として展示した。 ④調査(通年):通常の事業の枠組みを超えた活動を実施するための先進事例調査を行う予定だったが、中止した*。						
						①中止 ②延期 ③入場者:10,599人 ④中止

2)経常事業

①市民文化事業への支援事業

追加1	多様なメディアを活用した文化芸術創造支援事業	6月中旬 ~10/31	—	63,239	63,239	市補助金 63,239
新型コロナウイルスの影響でイベントの自粛要請や外出自粛が行われ、公共・民間の文化施設に集い、共に文化芸術活動を行うことが難しい状況下で、活動の縮小や停止を余儀なくされている地域の文化芸術関係者の活動継続を支援するため、多様なメディアを活用した文化芸術創造事業に対する支援事業を実施した。						
追加2	実演芸術の公演会場費助成事業	9/1~3/31	—	73,582	73,582	市補助金 73,582
新型コロナウイルスの影響で、屋内施設でのイベント開催時の収容率50%以内という制限により開催が困難となっている文化芸術公演の再開を促進するため、主催者に対し、会場使用料の一部を助成した。						
2	支援・助成・協力事業	通年	—	15,915	15,915	市補助金 15,915
市内で活動する団体・個人が行う文化芸術事業に対し、公募により広報支援、資金援助、その他各種協力を行った。 ・支援事業:年4回発行の文化情報誌「季刊まちりょく」に市民企画事業の告知を掲載し、広報サポートを行った。 ・助成事業:仙台市の文化芸術の振興と普及啓発および郷土の歴史継承を推進するため、文化活動の経費の一部を助成した。年2回公募し、助成審査会の答申を受けて助成事業・助成金額を決定した。 ・協力事業:特に公益性の高い事業について、入場券の販売協力、人材の紹介や派遣、事務局への参画、文化施設等での各種協力などを行う。また、良質な文化事業に対し、事業団友の会会員への割引チケット斡旋などの協力を行った。 また、助成事業のリニューアルに向けて検討を行うとともに、新型コロナウイルスの影響で助成事業の多くが中止となったことから、コロナ禍の影響にある文化ジャンルへの支援事業や広報・中間支援事業を実施した。 ・文化情報編集室事業「本屋・古本屋ガイドブック制作事業」:「仙台本屋時間」の制作・発行 ・広報支援業務:助成事業のウェブサイトでの情報発信支援 ・コロナに対応した中間支援事業: ①クリエイター・アーティストのための映像撮影編集講座(2/13、17 全3回) ②映像配信・収録体験講座(3/15・16) 3/29・30は中止*						
支援:60件 助成:89件 協力:52件 ①のべ49人 ②のべ23人						
3	名義後援	通年	—	0	0	
団体・個人が行う文化芸術事業に対し、名義後援を行った。						42件

②公演事業						
4	宝塚歌劇 月組 全国ツアー仙台公演	中止 (9/18・19)	仙台銀行ホール イズミティ21	0	0	
	東北の拠点となる仙台での宝塚歌劇公演は、全国ツアー公演そのものが行われず、中止となった*。					
5	仙台クラシックフェスティバル2020代替事業 クラシックエール仙台	10/3・4	日立システムズホール仙台	39,447	38,905	市負担金 23,000 国補助金 10,093 入場料 5,809、協賛金他 3
	2006年(平成18年)に事業団設立20周年記念事業として立ち上げ、15回目を迎える予定であった「仙台クラシックフェスティバル2020」(10/2～4)を中止し*、規模を縮小し特別企画として「クラシックエール仙台」を実施した。 ・45分と60分の公演時間、チケットは一般の公演と比較し手の届きやすい料金で、本格的なクラシック音楽を気軽に楽しんでもらうというせんくらのコンセプトを踏襲した公演のほか、じっくり演奏を聴いていただく2時間の公演も設けた。開催会場は日立システムズホール仙台1施設3会場に限定し2日間で15公演と規模を縮小して、安心して楽しんでいただけるように新型コロナウイルス感染症の予防対策も徹底したうえで、多様なジャンルのクラシックコンサートを開催した。 ・会場のコンサートホール、シアターホール、パフォーマンス広場では、客席を前後左右を空けた座席数に限定して実施した。 ・無料で鑑賞できる街なかコンサートも座席数を限定し、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し開催することにより、仙台市内にクラシック音楽があふれ、音楽の持つ力により、たくさんの方々に元気と希望、喜びを届けることのできるイベントとした。					入場者： のべ3,439人
6	もりのみやこのふれあいコンサート	中止 (12/4)	仙台銀行ホール イズミティ21	0	0	市補助金 0
	障害のある方とご家族・同行者の方などにオーケストラの演奏を楽しんでいただくとともに、芸術文化活動を振興することを目的に毎年12月の障害者週間に開催しているコンサート。仙台フィルハーモニー管弦楽団による親しみやすい演奏会で、回を重ねるごとに来場希望者が増えており、令和元年度は申込者多数により抽選を行った。事前申込制・無料とし、仙台市及び仙台フィルと共催している。 当初は例年通りに、仙台銀行ホール イズミティ21大ホールを会場に演奏会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のリスクを避けるためオーケストラの演奏を事前収録し、障害者週間に動画配信するように企画を変更した。しかし、収録の前日に収録用に別途用意した会場から感染者が出て臨時休館となり、代替会場とオーケストラのスケジュール調整ができず、障害者週間に動画配信ができないという理由により中止した*。					
7	新春いずみ寄席	1/11	仙台銀行ホール イズミティ21	2,245	1,212	入場料 1,212
	新春の看板事業として春風亭小朝師匠を招いて、東京の定席寄席と同規模の広さである小ホールを会場に、臨場感のある落語寄席を実施した。13時開演、16時開演の1日2回公演を行った(座席数は定員の50%とした*)。					入場者：のべ303人
8	共催事業	通年 (一部中止)	日立システムズホール仙台他	109	0	
	放送局等が行う公益性の高い文化事業を共催した。 ・第23回仙台青葉能(5/16)[河北新報社/負担金0] 中止* ・第57回宮城県芸術祭(9/26～3/21)[宮城県芸術協会ほか/仙台市市民文化事業団賞の授与] ・仙台オペラ協会第45回記念公演「魔笛」(9/6)[仙台オペラ協会/負担金0] 延期* ・人形浄瑠璃 文楽(10/2)[東北放送/負担金0] 中止* ・東京オペラシティリサイタルシリーズB→C「會田瑞樹パーカッションリサイタル」(4/18延期*→11/28)[公益財団法人東京オペラシティ文化財団/負担金0] ・小山実稚恵ピアノシリーズ「ベートーヴェン、そして…」第3回(6/7延期*→12/4)[仙台・杜の響きコンサート/負担金0] ・辻井伸行プレミアム・リサイタル2020(7/4)[仙台放送/負担金0] 中止* ・ミュージカル「チョコレート・ドーナツ」(1/16・17)[仙台放送/負担金0] 他					17件

③ホール運営活性化事業

それぞれのホールが、その機能を十分に発揮する各種公演等を行うこと、そしてより地域に開かれた施設となるよう、さらには新たな利用の可能性を探るために各種事業を実施した。

9	劇場・音楽堂等機能強化推進事業 (青年文化センター文化庁文化芸術振興費補助事業)	通年 (一部中止)	日立システムズホール仙台 (改修工事期間中は他会場)	16,414	14,169	入場料等 2,142 市負担金 9,956 文化庁助成金 2,071
	仙台市の文化芸術振興の中核施設として、育成・普及・創造の3つの社会的役割を果たす日立システムズホール仙台的自主事業。国からの補助金(文化芸術振興費補助金)を財源とした助成を受け、仙台市、(公財)仙台フィルハーモニー管弦楽団などと共催。令和2年10月からの大規模改修工事にもなう休館中は、市内他会場を使用しての実施となったほか、事業の一部中止および内容の変更を余儀なくされた*。 <人材養成事業> ①セミナー「社会包摂と文化芸術を考える」(8・9月 エッグホール):中止* ②せんだいダンスプロジェクト ～ダンスのいりぐちプログラム～(11月～3月 宮城野区文化センター):「リトルダンス」と「だれでもダンス」の2つのプログラムを用意。全6回のワークショップで最終日に成果発表会を予定。11・12月に2回ワークショップを実施したのち、緊急事態宣言の発令となり一時中断。最終的に仙台・宮城も緊急事態宣言となり続行不可能で断念せざるを得ない状況となった*。次年度への振替を検討中。 <普及啓発事業> ③放課後ダンスワークショップ(8月～1月 市内児童館及び学校等):中止*。 ④青少年のためのオーケストラ鑑賞会:学校訪問ミニコンサートにプログラム変更(11月中旬)*。会場をコンサートホールから各学校体育館、対象を小学校5年生、オーケストラをカルテットに変更し、規模を縮小しながらも生演奏を体験する機会を提供。午前の部10:00～10:45、午後の部14:00～14:45の1日2回の演奏で8日間にわたり16校(実施希望の学校数は85校)を訪問した。 <公演事業> ⑤名曲のちから「オーケストラ・スタンダード」(7月・9月 コンサートホール):中止*。 ⑥こどもとおとなのためのクラシック入門「仙台フィルのクリスマスコンサート Vol.3」(12/25 太白区文化センター楽楽ホール):仙台フィルの演奏によるクリスマスにぴったりの定番曲や、オーケストラの楽器紹介など、親子で楽しむことができるクリスマスシーズンならではのスペシャルコンサートを開催した。 ⑦こまつ座公演「人間合格」(8/1 シアターホール):仙台文学館初代館長・井上ひさしが座付作家をつとめたこまつ座の「人間合格」を、井上が信頼した鶴山仁の演出、新たなキャストで上演した。コロナ禍の中開催する事業団初のホール事業だったため、サーマルカメラを導入し、消毒を徹底するなど感染対策を講じた。席数を半分に減らしての販売となったが*、早い時期にはほぼ完売となった。 <その他> ⑧青年文化センター事業評価(通年):事業本数の減少により実施せず*。					人材育成事業 ①中止 ②参加者: リトルダンス20人 だれでもダンス22人 普及啓発事業 ③中止 ④鑑賞者:1,241人 実施回数:16回(校) 公演事業 ⑤中止 ⑥入場者:261人 ⑦入場者:247人
10	青年文化センター活性化事業	通年 (一部中止)	日立システムズホール仙台	297	31	コピー料収入 31
	地域資源等を活用しながら、文化創造・交流拠点としての施設機能の充実と利用促進を図り、より市民に親しまれる施設に向けた事業を予定していたが、中止や限定的な実施となった*。 ①日立システムズホール仙台パフォーマンスフェスティバル(5/31):開館30周年の節目に、施設の利用者及びゆかりのある市民やアーティストによるフェスティバル事業を計画したが、中止した*。 ②青年文化センター施設機能強化事業群 ア.地域連携事業(通年):地域に根差した施設としての役割を担うことを目的に、旭ヶ丘地域のコミュニティ事業「旭ヶ丘わんぱく森²(もりもり)がっこ」等の会合に参画した。諸事業は中止*。 イ.フリースペース活用事業(通年):エントランスホールなど共有スペースを活用した情報発信や賑わい創出について、方法を探りながら取り組んだ。財団の出版物を閲覧できる「サラダ文庫」を継続したほか、当館を拠点に展開してきた事業を紹介する「事業でみる開館30周年記念展」を、ギャラリー(9/14～25)及び1階エントランスホール(10/3・4)で実施した。 ウ.諸室活用(市民参加・体験・交流)事業(調査・準備):当館が有する多様な諸室を有効活用しながら、参加者が積極的に体験、交流できる事業モデルについて調査・準備を行った。 エ.ホール活用事業(調査・準備):ホールの特長を活かすとともに、施設目的や市民のニーズに沿った事業について調査した。 オ.共通経費 ③コピーサービス事業(通年):施設利用者用のサービスを継続して実施する。					入場者等: ①中止 ② ア.中止 イ.ギャラリー 254人 エントランスホール 1,843人 ③は収益事業

11	泉文化創造センター活性化事業	通年 (一部中止)	仙台銀行ホール イズミティ21	2,819	1,496	入場料他 880 協賛金 600 販売手数料収入 16
ホール施設等の利用促進に向けた活性化事業。 ①市民協働によるロビーイベント(年2回):ホール保守点検日に使用されていないホールロビーを活用し、地域を拠点に活動する団体との協働でコンサートを実施した。 ・ヴァイオリンとピアノによる名曲の調べ(飯川 直美(ヴァイオリン)、石丸 友貴(ピアノ)) (11/11) ・ピアノで誘う美しく幻想的な名曲の世界(文京華(ピアノ)) (11/12) ②ホール見学会(1日2回公演):普段目にする機会の少ない大ホールのバックステージを中心に、音響・照明等機材の操作体験を行う参加型の見学会を予定していたが、中止した*。 ③ピアノ弾き込みボランティア運営(9/16・17、12/1・2):大・小ホールに設置しているコンサートグランドピアノの状態を常時良好に保つため、一定の演奏技術を持つ市民ボランティアの協力によりピアノ弾き込みを実施した。 ④市民ギャラリー・エントランスロビーでの展示(市民ギャラリー／1回1週間程度、ロビー／通年):地域に縁のある団体や個人との協働で写真または絵画等の展示企画を予定していたが、中止した*。 ⑤コンサートシリーズ「イズミノオト」(7/4、11/23、2/23 小ホール):仙台市泉区出身で在住の音楽家による音楽監修で良質なコンサートを開催、クラシック音楽鑑賞の楽しみ方を掘り下げて伝えていくことを目的にシリーズで実施した。 第2回(7/4)メンデルスゾーンノ夏ノ夜ノ夢 中止*。 第3回(11/23)ショパンノバラッド(吉岡知広(チェロ／コーディネーター)、三又瑛子(ピアノ)、北端祥人(ピアノ)) 第4回(2/23)メンデルスゾーン 春ノ歌(吉岡知広(チェロ／コーディネーター)、青木尚佳(ヴァイオリン)、横島礼理(ヴァイオリン)、中村翔太郎(ヴィオラ)、澤江衣里(ソプラノ)、文京華(ピアノ)) ⑥避難訓練コンサート(秋頃1回):ホールでのコンサート本番中に地震が発生したという想定で、実際に来場者を募って行う避難訓練を兼ねたコンサートを予定していたが、中止した*。 ⑦泉中央地区プレイガイド事業(通年):利用者へのサービス向上と来場者への利便を図ると共に、文化イベントの普及促進に寄与するため、当館ホールを会場に実施されるイベントの入場券を受託販売した。また、仙台市市民文化事業団主催の入場券も併せて取り扱い、販売対応をおこなった。また、入場無料の整理券配布等については当館以外を会場とするイベントを含めて積極的に取り扱った。						入場者等: ①11/11 71人 11/12 66人 ②中止(8/6) ③のべ11人 ④中止(11月上旬) ⑤のべ381人 ⑥中止(10/19) ⑦は収益事業
④ミュージアム活性化事業						
ミュージアムの新たな魅力や個性づくりに向けた各種体験型事業やグッズ製作等を行い、来館者の増加や満足度の向上を図った。						
12	猿舞座のさるまわし	中止 (6/7)	榴岡公園 歴史民俗資料館	0	0	
榴岡公園を会場として、山口県岩国市に拠点を置き全国を旅しながら猿まわし興行を行う猿舞座の13回目の公演の予定だったが、中止した*。						
13	れきみん秋祭り	中止 (10/24、11/3)	榴岡公園 歴史民俗資料館	0	0	
歴史民俗資料館と10-BOXが共同で企画運営する「れきみん秋祭り」の14回目。「お神楽」「田植踊」「鹿踊」「剣舞」などの伝統芸能の競演と、仙台で守り継がれてきた伝統工芸の職人さんの手業の披露、併せてジャグリングやコマ回しなど、大人だけでなく各世代が同時に楽しめるイベントとして開催予定だったが、中止した*。						
14	歴史的な生活体験教室	5月～11月	富沢遺跡保存館他	451	77	古代米販売 67 参加料 10
当館の敷地や隣接地を利用して、米づくりなど富沢地区周辺で行われてきた昔の生活要素を体験する教室を行った。参加家族が協働して作業することを主眼に置き、歴史体験的活動を通して親子の絆を深める機会とする。臨時休館のため*、第1回の「田植え」は館職員のみで行い、残り4回の教室となった。収穫した古代米の稲わらは、一般来館者を対象とした工作体験を行い、古代米はグッズとしての販売も行った。 【実施内容】第1回 田植えなど(5/16 中止*)、第2回 石包丁づくり(6/13)、第3回 土器づくり(7/18・19) 第4回 稲刈り(9/19)、第5回 収穫祭(11/3)						参加申込:8組19人
15	地域交流促進事業	1/30	富沢遺跡保存館	263	0	
地域のイベントとしての定着と、地域の方々が参加しやすいかたちで野外展示「氷河期の森」の価値の共有や保全への共感を得ることを目的として行った。体験型イベント・飲み物の提供などが困難となったため、コンサートのみに内容を変更した*。地域活性化に寄与することを主眼に、令和元年度に引き続き、三桜高等学校音楽部に出演を依頼した。当初10/24の実施を予定したが、延期となり1/30に実施した。						参加者:55人
16	歴史・芸術融合事業 「ミュージアム・シアター“狩人登場！”」	通年	富沢遺跡保存館	1,499	0	
市内を中心に演劇等の表現活動をする「劇団 短距離男道ミサイル」の協力を得て、旧石器時代の狩人が登場するイベントを行った。ミュージアム・シアターの手法を導入することによって、考古学の知識や知的興奮に加え、当館での非日常的な空間を生かした特別な体験を提供することを主眼に、対応法等を変更して実施した*。 これまでのやり方では不特定多数者との接触となるため、指定管理業務「利用学習事業」参加校向けの出演など、接触した来館者が特定しやすい方法や、来館者との接触がない形での実施を行った。参加した学校団体からは、当館の展示内容を児童がより深く知ることができたと高評価を得た。						実施回数:25回
17	映像・記録発信事業「地底の森アーカイブス」	通年	富沢遺跡保存館	509	0	
写真および動画の撮影・編集にかかわるワークショップを2回開催した。写真や動画を活用できるソーシャルネットワークサービス(SNS)の増加により、市民が情報の受信者であると同時に発信者となっている。市民目線の写真および動画は、閲覧者にとって具体的な施設利用の提案となり、来館を促すと考えられる。参加者には施設の魅力を見つけ出して動画の撮影や編集をしてもらい、できた4作品を館のホームページなどで公開した。あわせて、地域に根ざした博物館として地域情報の記録・収集も行い、当館と地域の情報をアーカイブしていく。 ・動画撮影ワークショップ(11/15、12/13)						参加者:のべ21人

18	縄文祭復元事業「縄文まつり復元と創造プロジェクト」	通年	縄文の森広場	1,326	0	
	縄文人の暮らしの中で行われていたであろう、「まつり」の復元と創造を目指してこれまで調査研究活動を行ってきた。平成29・30年度には、市民と一緒に「草舟づくり体験」を行い、乗船体験した。また、調査研究活動の成果を公開するイベントとして、「縄文人の記憶の宴」を実施した。本イベントは、縄文時代をイメージした演奏・舞・食・火をテーマに、市内の劇団員や市民が縄文人に扮して巨大な火祭り・縄文の音楽・踊りを行ったものである。令和2年度は無観客で縄文人の「祈り」をテーマにした動画を撮影した。また、これまでのイベントをまとめた動画も作成し、Youtubeで公開した。					
19	学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」	通年	縄文の森広場	30	0	
	平成28年度から「ドッキーをつくろう」と題し、山田上ノ台遺跡出土土器の特徴を知ってもらい、お菓子づくり考古学者下島綾美氏を招いて土器片そっくりのクッキー「ドッキー」づくりを通じて山田上ノ台遺跡および縄文文化について学ぶイベントを近隣の上野山児童館と連携して実施してきた。また、オリジナルメニューの開発として、3次元計測によるミニチュアの土器型を製作し、縄文土器チョコづくりを実施した。当年度は、食以外の手法で新たなメニューの開発を行い、野上義史氏を講師として3/6に縄文をテーマとしたカラーリングブックづくりのワークショップを行った。					参加者:8人
20	展示手法の開発・導入	通年	縄文の森広場	696	0	
	新たな展示手法の開発と導入を図るための新事業とする。事業の柱は「リビングヒストリー」と「3次元計測」である。令和2年度は、「リビングヒストリー」について事例収集などの調査を行った。「3次元計測」は将来的にイベントや展示に活用可能なデータを作成するため、ハイスペックPCをリースし、縄文土器のデジタル写真計測を行った。					
21	仙台文学館まつり	中止 (8/23)	仙台文学館	0	0	
	平成21年度に開催して大変好評であった「吉里吉里国まつり」を「文学館まつり」として継続して開催。文学館に一層親しんでもらう企画とする。夏休みのこども文学館の時期に合わせ、子どもを視野に入れたステージやスタンプラリーを実施。秋以降の企画に繋げ、リピーターを増やす工夫をする予定だったが、中止した*。					
22	ライブ文学館「佐野洋子の世界(仮)」	中止 (1/30)	仙台銀行ホール イズミティ	0	0	
	令和2年度冬の特別展「佐野洋子の世界(仮)」の開催に合わせて、代表作『100万回生きたねこ』の朗読に音楽や映像を組み合わせたステージと、関係者によるトークの2部構成で実施。文学との出会いの場を広げ、「文学が息づく都市」仙台的な新たなブランドを醸成し、広く街中に文学の言葉を届け、文学作品の新たな味わいと楽しみ方を提示する予定だったが、中止した*。					
23	ミュージアムシアター 展示室劇場	中止 (冬期)	仙台文学館	0	0	
	仙台文学館の常設展示の柱である土井晩翠と島崎藤村や、常設展示室リニューアルに伴い、新たに取り上げた作家など、積極的に紹介する試みとして、生涯や作品世界を元に短い演劇に仕立てて展示室内で上演する。来館者が立体的にその作家を感じ、作品世界などに興味関心を深める手助けとするとともに、この手法を通じて文学と演劇の新しい魅力や楽しみ方を提案する予定だったが、中止した*。					
24	smtホスピタリティ向上事業	12/20～12/27	メディアテーク	167	0	
	実施が困難となった以下の事業の代替として、SENDAI光のページェント期間中、定禅寺通りに面した広場であるメディアテーク1階の巨大空間を照明や映像等で演出・活用する「光のひろば」を開催し、コロナ禍に対応した市民のひろばづくりを行った。 ①親子のための居場所づくり支援事業(通年):中止* ②メディア活用による2階映像音響ライブラリー活性化事業(通年):中止* ③オープンスクエアでの音楽系事業(通年):中止*					入場者:4,160人
25	ミュージアムグッズ開発・販売事業	通年	各ミュージアム他	618	677	刊行物販売 677
	ミュージアム来館者への記念品として、かつ普及の手法として、ブランドの向上や収入確保も目指し、施設の特長や資源を生かしたオリジナルグッズの開発を行った。 ①歴史民俗資料館グッズ:昭和22年復興新仙台地図、昭和27年仙台地図、昭和4年および昭和8年仙台商工地図・大正15年仙台地図、明治13年宮城県仙台全図、明治17年仙台市街絵入明細全図、仙台北下絵図の継続販売と、新規に復刻した昭和26年頃の「map of Sendai」(進駐軍が使用した仙台市内道路地図)を販売した。(支出147千円、収入247千円) ②富沢遺跡保存館グッズ:氷河期の森で採取した素材を活用したグッズ(リース等)、編布グッズ(コースター・しおり・ミサンガ・ストラップ)を販売した。(支出60千円、収入19千円) ③縄文の森広場グッズ:縄文の森広場ボランティアスタッフによるオリジナルグッズの製作と開発を行った。(支出162千円、収入109千円) ④仙台文学館グッズ:前年度までに制作し来館者の記念などとして人気の高いしおり・クリアフィルなどを継続販売する他、特別展に関連したグッズを制作を依頼し来館者のニーズに応えた。(支出126千円、収入134千円) ⑤メディアテークグッズ:ミュージアムショップ等と共同開発してきたオリジナルグッズの新規制作を行った。(エコバック、サコッシュ、伊東豊雄デザイントートバック等)(支出123千円、収入168千円)					収益事業

⑤劇都仙台2020事業						
都市文化を支える芸術としての演劇の総合性と公益性を背景に、仙台市と共催のもと、各種振興事業を以下①～⑤の体系に基づき実施した。 ①良質な公演の機会の拡大 ②表現者の発掘・育成 ③活動を始める市民への窓口やネットワークの支援 ④教育や福祉など他ジャンルとの連携 ⑤情報交流や協働						
26	市民能楽講座	中止 (9/21)	日立システムズホール仙台	22	22	市負担金 22
	能の公演を通して市民に伝統芸能の魅力を伝える企画として継続実施している事業。「能楽」をわかりやすく、気軽に楽しみながら学べる事業として、仙台市と仙台市能楽振興協会との共催により実施。当年度は、喜多流「融」等を上演予定であったが、中止した*。					
27	舞台スタッフ・ラボ	8月・2月	宮城野区文化センター	1,493	1,048	市補助金 808 受講料 90 助成金等 150
	オープン講座を8/10に開催。舞台関係者らが登壇し、新型コロナウイルス感染症にかかわる対策、体験談等を共有しながらスタッフワークの現状や今後の劇場の利用方法について会場全体で考える場とした。2月の本講座では、舞台監督・音響・照明部門の基礎コースと、模擬公演で実際にスタッフワークを体験する発展コースを開催。模擬公演は有観客とし、朗読劇「セロ弾きのゴーシュ」を上演。舞台芸術や表現の楽しさと奥深さに触れる機会を提供した。宮城野区文化センターとの共催により開催。					対象者： オープン講座 41人 本講座 24人 模擬公演入場者： 120人
28	10-BOX鑑賞型プログラム	通年	演劇工房10-BOX他	6,019	4,339	市補助金 4,276 入場料等 63
	(1)仙台・劇のまちトライアルシアター：高校生と創る演劇と子育て世代によるクリエーションを実施し、①PLAY KENJI『人や銀河や修羅や海胆は』(8/22・23)、②『子育ていろいろ 晴れときどき嵐』(12/26・27)を上演した。また、舞台作品や創作過程で作成した短編動画のオンライン配信にも取り組んだ*。 (2)「SENDAI OROSHIMACHI Art Marché(せんだい卸町アートマルシェ)」：県内外の先駆的な作品・評価の高い若手劇団の演目を一堂に集め、劇場鑑賞型の演劇祭(10/9～11)、オンライン演劇祭(10/16～18)を実行委員会との共催により開催。 (3)共催公演：鑑賞の機会を提供し、観客層の拡大につなげる。さらに、県外の劇団と在仙の演劇関係者との交流の場を創出し、在仙劇団の活動の幅を広げるもの。今年度は実施団体無し*。					入場者： (1)①38人 ②88人 (2)のべ739人(うちオンライン52人)
29	演劇と表現の講座	1/10、17、24	TAGE community(仙台フォーラス)	781	781	市補助金 763 受講料 18
	身体表現に着目し、数日間にわたるワークショップを通して、舞台芸術を幅広く体験し多角的に学ぶ講座。令和2年度は市内の会場で、演劇経験の有無を問わず参加者を募集し、俳優とともにコミュニケーションを学ぶ講座「10-BOX 楽しく語る技術講座 “推し”を魅力的に語る」を開催した。メインビジュアルに集英社の漫画「まぐわすび」のイラストを使用し、タイトルと合わせて若い層に興味を持たれる広報を行った。					参加者：11人
30	せんだい短編戯曲賞	通年	演劇工房10-BOX他	1,727	1,727	市補助金 1,727
	平成24年度から実施している短編戯曲を対象とする戯曲賞。全国公募により次代の演劇を担う人材を発掘し、冊子発行による作品の上演機会の創出、若い世代の作家の作品発表の場を提供する。平成30年度から作品上演と作品募集を隔年で実施することとなった。今回開催の第7回では全国31都道府県から277作の応募があり、大賞作品2作を選出し冊子を発行した。					応募作：277作品
31	能-BOX 経常事業	通年 (一部中止)	能-BOX	695	695	市補助金 639 受講料等 56
	能楽施設「能-BOX」を活用し、能楽、他の古典芸能、民俗芸能など、和の文化への親しみと理解を深めるための体験型事業を実施。①「こどものための能講座」(能楽師：山中逐晶)は定員を例年の半数以下に縮小して開催し*、仙台市能楽振興協会との共催による②「能のおけいこ体験講座」③「外国人向け能講座」は中止した*。					受講者： ①14人 ②中止 ③中止
32	共通経費(事業間連携活動等事務費)	通年	演劇工房10-BOX他	1,092	250	市補助金 121 刊行物販売 129
	劇都仙台事業や教育・福祉など他の専門組織との協働事業等にかかる共通の経費。ホームページの更新費や発送料の支出、せんだい短編戯曲賞の冊子印刷・販売・次年度の事業に向けた視察や調査研究など、事業間連携活動に必要な業務を行った。					
33	演劇-社会アクセス事業	通年	演劇工房10-BOX他	200	0	
	音響・照明等の機材貸出や、各団体の舞台芸術活動への協力を通して、舞台芸術による社会貢献の促進を図る活動。さらに、教育現場での演劇の次代の担い手を重点支援するため、小学校での学習発表会のサポートや高等学校演劇協議会による「仙台市高等学校演劇祭」を共催で実施。					演劇祭入場者：265人
34	音声学ワークショップ	通年 (一部中止)	演劇工房10-BOX他	0	0	
	磯貝メソッドに基づいた音声学講座。俳優の声と身体を見つめ直し、良い声を作るための呼吸法・発声法・発語法を学ぶ専門的なカリキュラムによる人材育成事業として、IMS磯貝メソッド仙台塾との共催により実施。今年度は上半期の実施を見送り、3/14の発表公演は無観客で開催した*。					対象者：30人
35	大衆紙芝居ネットワーク事業	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
	当事業団が平成17年度に実施した「大衆紙芝居ワークショップ」の参加者による団体「大衆紙芝居ネットワーク」の自主活動(オリジナル作品の製作、上演、作品展など)に共催し、ロッカーの提供、作品の保管・貸出、機材提供などの協力を行った。令和3年度からは物品や作品をすべて団体が直接保管・管理することとなり、保管場所の提供は終了となった。					

⑥創造都市推進事業						
仙台市との共催事業。市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、魅力と活気あふれる都市づくりを推進する。						
36	地下鉄駅コンサート	中止 (9/26・27、 10/3・4)	地下鉄駅構内	0	0	
仙台クラシックフェスティバル関連事業として、市内及び周辺地域を活動拠点にしている団体等が出演する無料コンサートを地下鉄仙台駅・旭ヶ丘駅構内で開催する予定であったが、中止となった*。						
⑦2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた「仙台市文化プログラム」事業						
37	仙台市文化プログラム事業	通年	—	5,875	5,875	市負担金 5,875
①「仙台市文化プログラム」公募・共催事業: オリンピック・パラリンピックを契機として、地域の文化芸術分野における多様な資源を生かした事業を推進し、新たな成果を生み出すこと、そしてその取り組みや成果が一過性にとどまることなく令和2年以降も継続的に波及効果をもたらすことを目指し、企画提案者と仙台市、事業団の3者協働で実施。令和2年度は、令和元年度に公募により採択・実施した4事業のうち2事業を実施した。 【実施事業】 (1)「SHIRO Atelier & Studio ーとものつくる芸術劇場ー」 実施事業者: 特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン (2)「こどもおとなあそびなかまプロジェクト! のびのびーばー!」 実施事業者: PLAY ART! せんだい ②beyond2020プログラム認証事務: 仙台市が「beyond2020」認証組織となり、事業団はその認証事務の一部を担った。						①参加者: のべ1,276人 (1)1,043人 (2)233人 ②申請: 7件
⑧東日本大震災10年に向けた「仙台舞台芸術フォーラム」事業						
38	仙台舞台芸術フォーラム	6月～3月	演劇工房10-BOX 仙台国際センター展示棟	9,379	9,379	市負担金 9,263 入場料 116
東日本大震災の記憶と経験をふまえ、過去・現在・未来を橋渡しする舞台芸術作品を創造・発信する舞台芸術フォーラムのモデル事業や基盤づくりを行う。当年度は、震災を主題にした舞台芸術作品として主催・共催合わせて4作品を上演。(シア・トリエ『キル兄にやとU子さん』、劇団うたたね.<ドット>『咆哮く私たちはもう泣かない』、屋根裏ハイツ』とおくはちかい(reprise)『ここは出口ではない』、方丈の海プロジェクト2021『方丈の海』)。合わせて、作家のインタビューやトークをパネルにし、公演会場や「仙台防災未来フォーラム2021」にて展示を行った。令和3年度の柴幸男新作公演に向けてのプレ企画として、オンラインでのトークおよびリーディングを実施した。そのほか、出演者オーディションも実施予定であったが、令和3年度以降に延期することとなった*。						参加者: のべ5,300人 (うち観劇・トーク: 903人、パネル展示来場者約4,400人)
⑨土井晩翠顕彰事業						
39	土井晩翠顕彰事業	通年	—	699	699	市負担金 682 刊行物販売 17
平成29年度末をもって解散した土井晩翠顕彰会の事業を引き継ぎ、詩人・土井晩翠の業績と遺徳を顕彰する事業を行った。「荒城の月 市民大合唱」は開催を見送ったが*、10/18に、晩翠わかば賞・あおば賞の募集と賞の贈呈を行った。また晩翠草堂の展示品の管理と展示内容の充実にも努めた。						
⑩育成・普及事業						
子どもたちが芸術文化に触れる機会を広く提供するとともに、アーティスト及び指導者の育成を図る。						
40	芸術家派遣事業	10月～2月	各学校・地域	0	0	
当財団が参加する「仙台市文化芸術による子供の育成事業実行委員会」が文化庁から業務受託し、学校や保育所等で子どもたちに文化活動や鑑賞の機会を提供した。開始が例年よりも1ヶ月遅れのスタートとなり、実績も120箇所から104箇所へ減少した*。当財団は実行委員会事務局として、文化庁との調整、実務統括、会計等を担当。実行委員会の決算額は13,953,219円。						実施会場: 104件 (幼稚園10件、保育所47件、児童館26件、小学校13件、中学校1件) 参加者数: 6,483人
41	東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト	11/28・29	仙台銀行ホール イズミティ21	443	0	
仙台及び東北地域における音楽教育の振興のため、東京藝大、仙台市、仙台市市民文化事業団の共同主催により、事業団設立30周年記念事業として始まった。 令和2年度はヴァイオリン、ピアノの2部門を実施。日本最高レベルの音楽教育に触れることで、地域で音楽に取り組む子どもたちのモチベーション及び技術の向上、地域で音楽教育に取り組む指導者の指導力向上を図った。 なお、当年度は藝大側の意向で聴講生は募集せず、事前に問合せがあった方などのみの入場とした*。						受講生: 10人 聴講者: 20人
42	文学館で言葉を楽しもう	中止 (通年)	各学校・地域	0	0	
小・中・高校の児童や生徒に、仙台文学館施設への興味、文学への興味関心を惹起し、感性や表現力、知識を深めることに力点を置いたプログラム。常設展示で紹介されている文学のことは耳で味わい楽しむワークショップや、短詩形文学の創作ワークショップ、また市内の団体の協力を得て民話語りの奥深さを味わってもらうようなカリキュラムを実践。バスを手配し平日の授業枠における文学館への来館・利用のハードルを低くすることで、市内小・中学校の文学館利用を促し、かつ利用した児童生徒の保護者層にも来館を促す契機とする。学校側が実施を見送ったため、開催はなかった*。						

⑪出版事業						
事業団の事業成果を出版。仙台発の編集文化の発信にも寄与する。						
43	出版物の販売継続事業	通年	—	1	15	刊行物販売 15
① 仙台文学館刊行物販売事業 :『仙台本のはなし24人でつくりました』『仙台で夏目漱石を読む』『瀬戸内寂聴 生きることは愛すること』『ユキユキドンドン スズキヘキ詩集』など、仙台文学館ゼミナールの成果品や講義録、また仙台文学館選書として出版したものを、継続して販売した。(支出0、収入7) ② 『仙台戯曲賞シリーズ』販売事業 :『仙台戯曲賞シリーズ』01～04を窓口販売の他、ウェブサイトからの申込みにより継続販売した。販売価格は1,000円(税別)。(支出0、収入2) ③ 『文化芸術の社会再生力』販売事業 :事業団設立20周年記念事業として実施した連続シンポジウム「文化芸術は成熟社会の再生力。」における鼎談と講演録を採録したブックレットを継続して販売した。(支出0、収入1) ④ 『RE:プロジェクト記録集』販売事業 :平成23年度から27年度まで実施した事業「RE:プロジェクト」の成果物(『RE:プロジェクト通信』5年目のRE:プロジェクト通信)に活動の記録や振り返りを加えて1冊にまとめた本を継続して販売した。(支出1、収入5)						
⑫広報事業等						
44	広報事業	通年	—	4,811	4,811	市補助金 4,756 広告収入 55
文化情報誌『季刊まちりよく』の発行(年4回)を継続して実施し、当財団の活動や各種外部事業情報に加え、仙台における文化領域の動向を広く市民に広報・紹介した。また紙媒体と連動し、速報力のあるホームページを運営(アクセス件数:年56,399件)するほか、報道機関等への情報提供を随時行った。						
45	文化情報編集室	通年	—	150	0	
仙台市域の文化資源について、新たな情報発信の仕組みや媒体のあり方を市民や文化団体とともに作りあげるための場「文化情報編集室」を設けた。この編集室では、文化団体・アーティスト・市民等とともに、文化情報の収集・編集・発信を行う。 当年度は、仙台市内の本屋・古本屋をはじめとした本に関する情報発信をテーマとし、実施・制作にあたっては、支援・助成・協力事業の枠組みで行った。						
46	市民文化事業団友の会運営	通年	—	2,983	1,399	友の会会費 1,399
市民の芸術・文化鑑賞機会の維持拡大を図るため、友の会組織の運営を継続して実施した。月例通信「市民ぶんかレター」による当事業団事業他の広報、主催・協力事業における先行及び優待サービスの提供等を行った。年会費1,000円。						
47	事業団事業全体にかかる共通事務費	通年	—	2,531	0	
事業全体の調整、新事業の調査・企画、事業評価、職員研修、臨時的人件費、チケット販売業務などの事務経費等。また、財団職員の資質向上を図りながら職場風土のさらなる改善に役立てるため、横断的人材育成事業(種まき事業)をスタートし、4つの今日的テーマ「財団の基本方針の見直し」「情報発信等のあり方」「社会包摂への取組」「震災10年を節目とした今後の展開」について取り組んだ。						

(2)コンクール運営事業

①仙台国際音楽コンクール事業						
令和4年に開催する第8回仙台国際音楽コンクールの準備を進めた。						
48	事務局運営	通年	日立システムズホール仙台	4,122	4,122	市負担金 4,122
コンクール事務局の運営を行った。						
49	委員会運営	通年	仙台市内・東京都内	859	859	市負担金 859
組織委員会、運営委員会、企画推進委員会を開催した。なお、組織委員会を書面開催とし、運営委員会、企画推進委員会の一部を中止した*。						
50	コンクール事業	通年	日立システムズホール仙台	1,343	1,343	市負担金 1,342 刊行物販売 1
第8回コンクールの審査委員及び実施要項を確定し発表した。						
51	広報事業	通年	日立システムズホール仙台	9,656	9,656	市負担金 9,656
公式ホームページやSNS、プレスリリース等により、コンクール及び関連事業の広報活動を行った。 第8回コンクール出場者募集に係る印刷物を作成し、国内外へ送付するとともに広告を掲出するなど広報活動を行った。 なお、コンクール開催発表記者会見は実施せず、組織委員会会長である仙台市長、運営委員長、ヴァイオリン・ピアノ部門の両審査委員長によるビデオメッセージを公式ホームページにて公開した*。						

52	ボランティア事業	通年 (一部中止)	日立システムズホール仙台	585	585	市負担金 585
	第8回コンクールでの活動に向けたボランティア活動運営の事務局業務を行った。 令和2年度は、コンサート等での活動中止や、各ミーティングの開催もオンラインでの実施や最小人数にするなどボランティア活動も制限された*。 ・ボランティアリーダーミーティングの開催 ・会場運営:コンサート等での活動やミーティング等全て中止* ・広報宣伝サポート:オンライン等でのミーティングによりボランティアニュース「コンチェルト」発行、ボランティアブログ運営等 ・出場者サポート:コンクール期間中の活動についてのミーティングの開催 ・ホームステイ受入れ:オンラインでの意見交換会を開催 ・ボランティアプロジェクトチーム:第7回コンクール入賞者によるコンサート企画は中止となり*、オンラインインタビュー企画に変更して制作を進めた。					ボランティア登録: 200人
53	第7回仙台国際音楽コンクール 最高位入賞者副賞コンサート	通年 (一部中止・延期)	国内各地	338	338	市負担金 38 刊行物販売等 300
	第7回コンクール最高位入賞者の副賞として、リサイタル出演や国内オーケストラとの共演の機会を提供し、CDの制作と音楽配信を行うこととしていたが、中止もしくは次年度に延期となった*。 また、令和3年度及び4年度に実施する副賞の準備を行った。					
54	仙台国際音楽コンクール関連事業	通年 (一部中止)	市内各所	596	596	市負担金 596
	①仙台的音楽文化振興を目的に、第7回コンクール入賞者と仙台市内の市民オーケストラが共演する機会を設けるとともに、小中学校訪問コンサートの開催を予定していたが、海外在住の入賞者を招へいすることができず、中止となった*。 ②仙台ゆかりの若い音楽家の活動支援とクラシック音楽鑑賞の普及等を目的に、2月から3月にかけて客席収容率を50%として5会場で開催することとしていた「街かどコンサート」は、前日の地震の影響を考慮し3/28に延期した2/14の公演が、宮城県・仙台市の緊急事態宣言発出により開催を断念せざるを得なくなり、4会場での開催となった*。					①中止 ②入場者数:168人

(3)ジュニアオーケストラ運営事業

55	仙台ジュニアオーケストラ運営	通年 (一部中止)	日立システムズホール仙台 仙台銀行ホール イズミティ21	18,800	18,800	市負担金 14,789 受講料・入場料等 4,011
	・仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管した。 ・通年の練習等の指導は、仙台フィルハーモニー管弦楽団に委託した。日立システムズホール仙台の休館に伴い、10月から会場を仙台銀行ホール イズミティ21に移して練習を実施した。 ・8月に予定していた夏合宿は中止した*。 ・10月に実施を予定していた「定期演奏会」は、小編成での室内楽作品を披露する形に変更し、「仙台ジュニアオーケストラメンバーによる室内楽演奏会」として実施した*。 ・3/28に実施を予定していた「スプリングコンサート」は、宮城県・仙台市の緊急事態宣言発出に伴い、開催を断念した*。					団員数:82人

(4)演劇系練習施設運営事業

56	せんだい演劇工房10-BOX運営	通年	演劇工房10-BOX 能-BOX	25,639	25,639	市補助金 22,388 利用料等 3,251
	「試しながらじっくり演劇を作る空間」をコンセプトに、独自のスペース・設備などを弾力的な利用システムにより貸出し、仙台における演劇及びその周辺の表現活動を直接的に支援し、加えて、「劇都仙台」各事業との一体的な運営によって、市民の文化芸術活動を支えた。また、民間より寄贈を受けた能舞台を仙台卸商センターの倉庫に移築した、別館「能-BOX」の運営を行った。 なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、仙台市のガイドラインに基づき全館臨時休館するとともに、館の取り組みと利用者向けにお願い文書の作成・公表、消毒が容易な床材への変更、換気対策での網戸の設置、非接触型体温計の貸出し、消毒用アルコールやペーパータオルを備える等の対策を行った*。					収益事業を含む

(5) 震災メモリアル交流施設運営事業

57	せんだい3.11メモリアル交流館運営	通年	3.11メモリアル交流館	62,190	62,190	市受託料 62,161 受講料 29
	地下鉄東西線荒井駅舎に併設され、平成28年2月に開館した「せんだい3.11メモリアル交流館」の運営(①来館者の対応 ②事業の実施 ③管理業務の一部)を、職員常駐の枠組みとして、仙台市まちづくり政策局からの委託事業として行った。「震災の被害や状況を知り、その経験や教訓を学ぶ場」「東部沿岸地域の記憶を残し、継続的に地域再生への力を形成していく場」「東部沿岸地域への案内所・発着点」としての施設機能を持ち、国外、県内外、周辺地域等々、様々な来館者が訪れ集う場として、親しみやすい運営に努めた。上記のような施設機能を実現するため、下記の事業を実施した。 なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、仙台市のガイドラインに基づき全館臨時休館するとともに、利用にあたってのガイドラインの策定、消毒液の設置、定期的な換気、イベント参加者の人数限定(間隔を広げたイス配置)・連絡先入手、イベント参加者の検温、消毒等の対策を行った*。 【企画展(関連企画のツアーやワークショップ等含む)】 ① 3.11現場の事実×心の真実「世界がすこやかであるために」(2/22～9/13)* ② うみべの小学校(9/26～1/31) ③ わたしは思い出すー10年間の子育てからさぐる震災のかたち(2/10～6/13)* 【その他事業】 ・沿岸部ツアー(「荒浜を歩く」「海辺のサイクリングツアー」「大人の竹竿ハゼ釣り」) ・沿岸部の風土・文化を体験する催し・ワークショップ等(「まめげつつあん」、「冬の遊びと手仕事シリーズ」) ・震災10年企画(「星空を見上げてー天体観望と屋上ライブ」、ハンドブック『海辺のふるさとー仙台市東部沿岸地域の歴史と記憶』の製作) ・情報発信(「海辺のメモリアル帖」の製作・発行(vol.5～vol.8)、オリジナルグッズの販売) ・市民・団体・組織との協働(「協力事業」「メモリアルシアター」)					年間入館者: 25,058人 企画展来場者 (関連企画参加者): ① 7,776人(中止) ② 6,722人(23人) ③ 2,973人(24人) 協力事業:29件 共催事業:1件
58	せんだい3.11メモリアル交流館販売業務	通年	3.11メモリアル交流館	461	461	市受託料 461
	「せんだい3.11メモリアル交流館運営業務」の一環として実施。海辺のメモリアルソーダに、一筆箋・防災マステ・クリアファイルを追加し、せんだい3.11メモリアル交流館の施設機能及び知名度の向上を目的とする物品を販売した。					海辺のメモリアルソーダ 567本、一筆箋31冊、防 災マステ75個、クリアフ イル40枚

(6) 芸術文化受託事業

(単位:千円)

59	市制施行131周年記念コンサート	12/8	仙台銀行ホール イズミティ21	4,012	4,012	市受託料 4,012
	仙台市の市制施行記念式典の一環として開催する仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会。ソリストには第7回仙 台国際音楽コンクールヴァイオリン部門第6位であり、国内外での活躍も目覚ましい荒井里桜を迎えた。なお、7/6か ら延期し、客席は前後左右を空けた座席数に減らして開催した(記念式典は10月に延期開催)*。					入場者:528人
60	せんだいメディアテーク震災アーカイブ運営	通年	メディアテーク 他	15,891	15,891	市受託料 15,891
	大震災を受け、震災とその復旧・復興の過程を、市民・専門家・スタッフが協働して記録・発信し、「震災の記録・市民 協働アーカイブ」として、整理・保存・利活用する取り組み「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を運営した。具 体的には、①写真や映像等で記録し、②資料活用に向け、アクセス可能なメタデータなどを整備し保管した。③収集 資料の一部を、ウェブサイトを通じ配信し、④ライブラリーへの配架、上映会や展覧会の開催など、さまざまな形で利 活用した。 ・震災から10年を迎えることから開催予定だった、コミュニティ・アーカイブ・フォーラム(草アーカイブ会議3)は、中止し た*。 ・これまでの成果をまとめた資料カタログを発行するとともに、「仙台防災未来フォーラム2021」へ参加し、トークセッ ションの動画配信及びブース出展(3/6)を行った。 ・展示と上映「星空と路」(3/10-4/18)を開催した(3/23より臨時休館*のため、8/1まで会期延長)。					③ウェブ閲覧数: 3,345,594回 「星空と路」参加者: 2,356人

2. 定款第4条第2号の事業(文化芸術等に関する普及啓発及び情報発信)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					入場者数等・備考

(単位:千円)

① 仙台文学館普及啓発事業

61	特別展・企画展の関連事業	各展示の開催 時期(一部中 止)	仙台文学館	212	212	市補助金 212
	特別展・企画展の会期中に、文学のより深い魅力を伝えていくことを目的に展示テーマに関連する様々なイベントの 開催を予定していたが、①～③については中止、または開催を見送った*。 ①企画展「佐々木俊郎展」関連:中止 ②「こども文学館 えほんのひろば みちのく妖怪ツアー」関連:延期 ③特別展「安野モヨコ展」関連:中止 ④特別展「佐野洋子の世界」関連:トークイベント「佐野洋子を語る」(1/30)を実施したが、2人のゲストは東京からリ モート出演での実施となった*。					参加者: ①中止 ②延期 ③中止 ④50人
62	ことばの祭典ー 短歌・俳句・川柳への誘い	中止 (6/21)	仙台文学館	77	77	市補助金 77
	短歌、俳句、川柳の3部門による合同吟行会。文学館の敷地内を中心に吟行し、当日発表される題に沿って作られた 作品から「ことばの祭典賞」を選ぶ予定をしていたが中止した*。翌年のことばの祭典に向けて、開催方法を見直し印 刷物を制作した*。					

63	文学講座、講演会等の開催	秋～通年 (一部中止)	仙台文学館	1,120	1,120	市補助金 571 受講料 549
	文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった主体的なニーズに応え、幅広いテーマによる講座や参加型イベントなどを実施し、文学の振興を図った。 ①佐伯一麦エッセイ実作講座:館長の作家・佐伯一麦によるエッセイの鑑賞と実作指導の連続講座。通年で7回の予定を5回に減らして開催した*。 ②仙台文学館ゼミナール:春に開催予定だった講座は中止となった*。秋以降は、仙台市のガイドラインにより、参加人数を半減して開催した。近代文学を読み解くコース「太宰治『津軽』を読む」中止*、現代文学を探究するコース「井上ひさしの小説を読む」3回、古典に親しむコース「『万葉集』を味わう」5回、「『源氏物語』を読む」5回、表現をみがくコース「朗読ワークショップ」中止*、「俳句実作講座」中止*、「川柳実作講座」4回、「小池光短歌講座」4回、古典芸能を楽しむ「落語を味わう」中止*。 ③仙台朗読祭、詩のリーディングイベントなど:広く一般市民に参加を募り、思い思いの作品を自由に朗読してもらう仙台朗読祭や、地元詩人によるポエトリーリーディングなどの文学作品の朗読イベントは、開催を中止した*。佐伯一麦館長がゲストと対談するイベント「北根ダイアログ2020」(11/22)では、前館長小池光氏を迎えて開催した。					参加人数: ①96人 ②687人 ③65人
64	教育機関・関係者との連携事業	通年	仙台文学館	0	0	
	夏には図書室や国語を担当する教員への研修を実施し、秋には県内高等学校の文芸部の部誌の展示を開催し、活動を支援した。					
65	学芸員出前講座	通年	—	0	0	
	市内を中心に近隣の学校や市民センターなどに学芸員が出向き、宮城の文学やこれまでの企画展で取り上げた文芸者についての講座を行った。					
66	情報誌の発行	通年	—	940	940	市補助金 940
	文学に関する話題を幅広く発信していく情報誌の発行を継続した。新館長が就任したのを機に、文学者からの寄稿のほか、仙台の新しい文学を取り上げた企画等内容の充実を図りながら誌面をリニューアルし、より親しみやすい内容を目指した。					
67	こどもの本の部屋の運営	通年	仙台文学館	0	0	
	絵本を中心にこどもの本を自由に読んでもらうコーナー。文学館の展示観覧は難しい小さなこどもたちも、保護者とともに楽しめるように、本の入れ替えなども行い活性化を図っていく。「こどもの本の部屋」を会場とした、近隣児童館との連携による乳幼児向け事業も実施する予定だったが、「こどもの本の部屋」は閉室し、絵本の一部を2階の情報コーナーで展開し、親子連れへ読書の場を提供した*。					
68	文学館友の会の支援	通年	—	0	0	
	会の事務局を担当し、文学館との共催事業や読書会の開催、会報の発行などを実施した。					
69	出版物等の販売	通年	—	550	550	市補助金 470 刊行物販売 80
	佐伯一麦エッセイ実作鑑賞講座や小池光短歌講座の記録集を制作し販売した。文学館選書『天地有情』の他、企画展開連の物品も館内で継続して販売した。					

3.定款第4条第5号の事業(文化芸術等に関する生涯学習の支援)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					入場者数等見込・備考

(単位;千円)

①せんだいメディアテーク 展覧会等総合事業						
70	せんだい・アート・ノード・プロジェクト	通年	メディアテーク	21,616	21,616	市補助金 21,616
	優れた現代アートのもつ発見性、吸引力、発信力を取り込みながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合うアートプロジェクトを展開することで、まちの魅力と人々の活気を引き出し、文化都市仙台を発信した。 ①川俣正／仙台インプログレス:新たな木道を川俣氏のリモートによる指示で制作した(12/14～19)。また、関連団体が主催するイベント等に協力した。 ②藤浩志／ワケあり雑がみ部:オンライン企画「おうちで雑がみ部」を実施(7～3月)するとともに、人数を絞り、実際の部活動を行った(9～12月)*。また、周辺商店街での七夕や、各種団体のイベント等に協力した。 ③東北リサーチとアートセンター:令和元年度に実施した「レコメン堂」のアーカイブサイトを作成したほか、運営パートナーによる展覧会や関連イベントを実施した(7～8月、11～12月、3月)。 ④TALK(トーク):協働者の企画によるコロナ禍についてのトークを、主に記録・配信を意図として実施し、人材育成と市民啓発の機会とした(8～1月に9回開催)。 ⑤ジャーナル:広報紙を発行した(3月)。					①②④参加者:182人 ②配信閲覧数:4,722人
71	せんだい資源ナレー	1/29～3/23	メディアテーク	1,000	1,000	市負担金 1,000
	世界的・全国的な課題となっているプラスチックごみ対策として、令和2年度に仙台市が取り組む「プラスチック資源循環の推進にかかる事業」の一環として、「テトラとリリック 仙台から見る海洋プラスチックのいま」と題した展示を環境局と共催で行った。在仙rapper HUNGER氏とデザイナーによるリリックと楽曲の展示のほか、環境NPOの協力のもと情報展示を行った。					入場者:118,360人

72	展覧会事業	通年 (一部延期)	メディアテーク	7,994	7,994	市補助金 7,994
	主題「ナラティブの修復」を象徴する事業として、アーティストと協働し、今日的な社会の課題や哲学的な問いを表現によって投げかける展覧会。地域社会の過去と現在を読み解く多様な「物語り」の技法を、美術表現として探求している作家たちを紹介する。主として仙台を拠点に活動している表現者を選定し、震災から10年が経過した東北と、せんだいメディアテークの開館から20年目となる仙台を展望する展覧会の開催を予定していたが、展覧会は次年度へ延期、令和2年度は作品制作等の準備期間とした*。					
73	スタジオ情報発信/地域文化アーカイブ	通年	メディアテーク	2,621	2,621	市補助金 2,621
	市民間の交流、対話を促進するための対話の場／機会／メディアを用意した。 <スタジオ情報発信> 「考えるテーブル」など、誰もが参加可能な対話型公開会議などを中心に、市民力を醸成し、市民の主体的な社会参加が文化面から活性化していくことを目指すとともに、さまざまな市民の文化活動と協働する事業を行う予定だったが、例年どおりに、集う形でのイベントが困難だったので、ZOOMを使用したオンラインで「てつがくカフェ」を実験的に行った*。 <地域文化アーカイブ> 市民による自発的な地域文化財のデジタル化により、保存、活用を促す取り組み事業を実施する。成果物は、メディアテークに保管され、ライブラリーへの配架やウェブサイト等での発信などにより、広く市民に活用される財産とする。また、それらをもとにした小規模な展示を行うことで、仙台市域のさまざまな文化活動へのより広く深い市民の関心を促した。					参加者:4,365人
74	発信・施設活用推進	通年	メディアテーク	4,064	4,064	市補助金 4,031 刊行物等販売 33
	各種団体との連携を通じ地域における役割を担うとともに、市民図書館を含めたメディアテークの総合的な情報アクセス機能の活性を促し、常に時勢に応じた魅力あるメディアテークを展開した。 ①バリアフリー・デザイン事業:目や耳の不自由な人々の主体的な情報アクセスを促進するための点字翻訳、音声解説、字幕制作等のデータ作成を市民との協働で行う。成果物を活用した上映会等の開催、作成に関わる人材の育成、技術向上に向けた一連の取り組みを行った。 ②館長発信事業:発信力のある鷺田清一館長を軸に、著名なゲストとトークをする「ドートクのじかん」は中止とした*。かわりに、伊東豊雄建築設計事務所との共催事業である「公共建築はみんなの家である」展(8/20～10/21)を開催した。 ③地域文化連携・施設活用推進:各種団体との協働や連携・ネットワークを用い、地域におけるメディアテークの役割を担いつつ、オープンスクエア、ギャラリー、シアター、ライブラリーなど館全体の機能を活かしたイベントや展示や上映会など多様な活用事例を示した。さらに、市民図書館とのイベント等の各種連携を通じ、より広い関心を集め、交流を促進する機会をつくった。 また、取り組みが広く市民に届くよう定期的な広報、啓発、情報発信に努め、次年度事業にまつわる調査を通じ、時勢に敏感に応じた事業に取り組んだ。					参加者数:9,697人 ① 187人 ② 6,950人 ③ 2,560人

4.定款第4条第1号、第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集、保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					入場者数等見込・備考 (単位;千円)

(1)仙台市歴史民俗資料館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

75	仙台市歴史民俗資料館 管理運営	通年	歴史民俗資料館	62,098	62,098	市指定管理料 62,098
	歴史や民俗に関する展示等を行い、学校教育や生涯学習活動を支援する場所として、仙台市有形文化財である本館建物の維持管理を行った。特に2月の地震では漆喰壁に多数の亀裂が入り、今後修繕予定である。 なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、仙台市のガイドラインに基づき全館臨時休館するとともに、再開後は仙台市のガイドラインに沿った施設管理・来館者対応等のマニュアルを作成し、消毒液の設置や施設内の消毒強化、遊具や学習室の利用停止、体験学習の時間と人数の制限など、管理運営にあたった*。					
76	仙台市歴史民俗資料館 常設展示	通年	歴史民俗資料館	908	908	市指定管理料 908
	「仙台地方の農具と農家の暮らし」「仙台 町場の暮らし」「旧歩兵第四連隊コーナー」「体験学習室」に加え、「花見」「七夕と盆」「仙台の正月」等の季節展示をロビー及び展示室で展示紹介した。また、震災関連展示を行った。さらに、開館40周年を過ぎたことをふまえて常設展図録を編集、刊行した。					年間入館者:9,678人

①特別展・企画展及び関連事業

77	企画展「オールドグラフィック～近代仙台のメディア文化」	5/19～7/5	歴史民俗資料館	260	260	市指定管理料 260
	グラフィックとは、写真・絵画などを用いて視覚に訴える印刷物などのことで、メディアとは情報媒体などのことを指す。本企画展では仙台地方を中心に、幕末・明治時代以降から大正期・昭和初期、戦後、現代にかけて発行されたオールドグラフィックを通して、近代仙台のメディア文化の移り変わりを明らかにし、その歴史的な役割を考え展示した。なお、4/25から開催予定であったが、5/18まで臨時休館した*。					入館者:687人
78	企画展「わらと生活」	7/18～11/3	歴史民俗資料館	881	881	市指定管理料 881
	「わら(藁)」とは、稲、麦などの茎を乾燥したもの。昭和30年代までは、わらは衣食住、交易や交通、あるいは信仰や祭りなど、人々の生活の様々なところで使われ、実用的な機能や役割とともに、生活美や民芸としても評価されてきた側面がある。本企画展では、わら製品を中心に民衆の生活文化について考え展示開催した。					入館者:3,373人

79	特別展「仙台の災害～天災は忘れたころに～」	11/14～3/25	歴史民俗資料館	1,766	1,766	市指定管理料 1,766
	ヤマセなどの天災による飢饉をはじめ、仙台地方は地震や洪水、火災などの災害にたびたび悩まされてきた。本特別展では会期中に東日本大震災から10年を迎えるにあたり、東北地方を全般に見通しながら、旧仙台藩領を中心にして江戸時代から現代にいたるさまざまな災害に対する備えや対策、信仰などについて紹介した。なお、会期は4/11までの予定を3/25に短縮して終了した*。					入館者:4,977人
80	講座・体験イベント等	通年 (一部中止)	歴史民俗資料館	98	98	市指定管理料 98
	①資料館サポーター養成講座(7月～3月): 「資料館の魅力について～展示・収集・調査研究・教育普及～」のタイトルで、資料館の事業活動や資料の活用方法を考えながら、民俗文化財や歴史資料の意義をとらえ、参加者のさまざまな活動につながっていくことをめざして開催した。 ②子ども講座(7月、1月、3月): おもに小学生を対象に、仙台地方の歴史や民俗をわかりやすく解説するために紙しばいの講座を開催した。 ③ゴールデンウィーク「おもしろ昔たいけん」(4/25～5/6の間の8日間): なつかしい玩具「竹とんぼ、水鉄砲」のボランティア講師による製作実演や、生活用具「石臼ひき」、こままわし、フラフープ、ホッピングなどの遊びを体験する予定だったが、中止した*。 ④クイズラリー(夏休み・冬休み): クイズやパズル形式での自主見学学習。 ⑤たんけん資料館「れきみんバックヤード・ツアー」(8月、10月、2月): 展示室、収蔵庫や資料整理室など普段見ることができない資料館のバックヤードを学芸員が解説案内する見学会を開催した。 ⑥ホームムービーの日(10/17): 家庭に埋もれているフィルムを持ち寄り地域の貴重な映像を発掘し、公開した。					参加者: ①5人 ②58人 ③中止 ④61人 ⑤40人 ⑥24人
81	資料館だより等の発行(その他の事業)	通年	歴史民俗資料館	148	148	市指定管理料 148
	資料館だよりの制作や、資料館の活動チラシを作成し、学校、町内会、関係各所、入館者への配布を行い資料館を利用した社会科学学習を促した。					
82	歴史民俗資料の収集・保管	通年	歴史民俗資料館	1,422	1,422	市指定管理料 1,422
	資料の有効活用を図るための整理・修復作業を行うとともに、資料台帳のデジタル化を推進し、「資料集」をまとめ刊行した。					
83	調査報告書等の発行	通年	歴史民俗資料館	1,089	1,089	市指定管理料 1,089
	仙台地域を中心に民俗(民間伝承)、近現代の庶民生活に係る「聞き書き」等の調査を実施し、「調査報告書第39集」にまとめ、刊行した。また館蔵資料の公開、活用のため「資料集 収蔵資料目録IX」を編集・刊行した。					
84	学校教育との連携	通年	歴史民俗資料館	0	0	
	学校教育との連携促進を目的として実施する事業。小学校3年生社会科の学習および総合的な学習の際、年間50校を超える市内外の学校が見学に訪れ、石臼挽きなどを体験した。8月には、学芸員資格を目指す大学生の単位取得のために必要な実務実習を受入れ、12月には近隣中学校より職場体験の生徒の受け入れを実施した。					利用学習: 54校3,452人 博物館実務実習: 4大学13人 職場体験:1校2人

(2) 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

85	仙台市富沢遺跡保存館 管理運営	通年	富沢遺跡保存館	94,461	94,461	市指定管理料 94,461
	旧石器時代に関連する展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習活動を支援する場として、富沢遺跡保存館を維持管理した。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、仙台市のガイドラインに基づき臨時休館(野外及びトイレは利用可能)するとともに、再開館後は、仙台市のガイドラインに準拠した施設管理・来館者対応等のマニュアルを作成し、管理運営にあたった*。					年間入館者: 17,134人
86	仙台市富沢遺跡保存館 常設展示	通年	富沢遺跡保存館	13,448	13,448	市指定管理料 13,448
	地下1階の富沢遺跡の発掘調査面の展示、1階での調査結果の展示、及び「氷河期の森」(植生復元)の野外展示を総合的に行った。					

① 特別展・企画展

87	企画展「仙台の遺跡めぐり きみのまわりの旧石器」	5/19～7/19	富沢遺跡保存館	59	59	市指定管理料 59
	近年、仙台市内の発掘調査が進み、多くの調査成果が蓄積されている。春季企画展は、仙台市内の遺跡から出土した資料を中心に、身近な文化財を紹介するシリーズとして開催している。今回は仙台の旧石器時代の遺跡を近くにある小学校とともに取り上げ、私たちの身近にある旧石器時代の遺跡を紹介した。あわせて、石器の作り方や旧石器時代の環境なども紹介した。なお、4/24から展示開始を予定していたが、臨時休館後に展示を開始した*。					入館者:2,943人 参加者: 関連講座(7/11) 19人 ギャラリートーク(6/28) 10人 関連イベント(7/12) 7人
88	企画展「縄文あにまる ～つくる・つかう～」	8/4～10/18	富沢遺跡保存館	118	118	市指定管理料 118
	宮城県内の遺跡から出土した、動物形土製品や動物モチーフの資料、動物の骨角を材料として作られた道具類を展示した。縄文時代の人々は、動物をどのように捉え、どのような意味を込めて土製品等を作っていたのか、などについて、関連する資料を写真パネルで紹介しながら展示した。					入館者:5,720人 参加者: 関連講座(9/5) 14人 関連イベント(8/29・9/22) 17人

89	企画展「発掘！むかしのみやぎめし」	11/19～1/11	富沢遺跡保存館	287	287	市指定管理料 287
	規模を縮小し*、通常企画展として開催した。仙台市内の遺跡と東松島市里浜貝塚で出土した、縄文時代から近世までの出土資料を取り扱った。過去の食材を示す貝殻・骨、植物の種子・穀とともに食に関わる調理用具や食器などの出土資料を中心に、宮城県を代表する米やマグロ・サメなどの食材、餅や茶等の食事、食器の変遷などを紹介した。					入館者:2,131人 参加者: 関連講座(12/12) 20人 ギャラリートーク(11/21) 5人、(1/9)4人
90	企画展「もりの風景2020」	2/2～3/14	富沢遺跡保存館	28	28	市指定管理料 28
	細野修一さんの描いた「動物デザイン考古学」のイラスト展示と、当館が当年度実施した事業とボランティアスタッフなどの活動成果を紹介した。イラスト展にあわせ、展示イラストのうちの1枚と旧石器時代をイメージしたデントの写真でフォトスポット用のパネルを作成し、来館者が自由に撮影できるブースも設けた。また、展示室内になぞ解きゲームができるよう工夫を加えた。さらに、自主財源事業「施設広報開発事業」で参加者が作成した動画作品の公開も行った。					入館者:1,979人
91	講座・体験イベント・ボランティア事業等	通年 (一部中止・延期・変更)	富沢遺跡保存館	995	995	市指定管理料 995
	①地底の森フェスタ2020(10/12):内容変更し「体験！発見！地底の森」として実施*。10月10・11・18・25日の4日間に日程を分散させ、参加者数を減らして日替わりで体験活動を行った。基本的に事前申込制で実施。 ②考古学講座(11/21、1/30):内容変更し「地底の森特別講座」として実施*。東日本大震災から10年を迎えるにあたり、博物館と震災をテーマに最新の調査研究成果や博物館活動を紹介する講座を一般市民を対象に行った。[講師:青野友哉(2/6)、内山大介(3/20)] ③たのしい地底の森教室(通年・全20回):一部中止と延期。施設の魅力を多様な観点から紹介する事業として位置付け、当館スタッフが講師となって企画展に関連する体験イベント、仙台の歴史を語る紙芝居の会に協力いただき、当館をテーマとした「冒険しんちゃん地底のたび」の上演などを行った。 ④利用学習事業(通年):内容変更*。小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する授業を実施した。三密を避けるため、館内外4ヶ所に分散して授業を行った。展示見学・石器使用体験・狩人登場見学等これまでと大きく異なる内容で行った。実施後、実践内容はウェブサイトで開催し、次年度の活動に活かしていく。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から分館・縄文の森広場の同事業と連携して行った。 ⑤市民文化財研究員育成(通年):一部回中止*。考古学に対する市民の学習活動を支援するため、公募による4名を対象に、1年間にわたり週1回 当館学芸員が支援する活動日を設けた。活動成果として3名が活動報告書をまとめた。 ⑥ボランティア育成(通年):ボランティア活動のうち来館者と接する活動は自粛、準備作業等に限定*。市民文化財研究員修了生の中の希望者及び公募による申込希望者に展示解説や行事の際の業務補助などを行うボランティアを育成した。養成講座・研修会は中止し、特別講座を1回実施した。また、自主研修活動の支援を行った。 ⑦地域や大学との連携:中止・活動自粛*。地域のイベントである太白区民まつりへの参画、学生ボランティアとの協働事業など、地域や大学との連携を強化する内容を計画していたが、ほとんどできなかった。 ⑧富沢ゼミ:延期。富沢遺跡周辺を中心に、仙台市内や宮城県内の遺跡や文化財などを紹介する講座を2回開催した。[講師:三浦一樹(12/18)、斎野裕彦(2/19)]					参加者等: ①のべ127人 ②2/6 26人 3/20 18人 ③のべ112人(全20回のうち中止4回・延期2回) ④9校816人 ⑤3人修了 ⑥登録70人 (のべ604時間、259人活動) 特別講(12/11)28人 ⑦学生ボランティア登録9人(活動実績なし) ⑧12/18 17人 2/19 18人
92	研究報告の刊行	通年	富沢遺跡保存館	131	131	市指定管理料 131
	富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム・縄文の森広場)の職員・ボランティアなどによる調査研究活動や研修の成果を研究報告としてまとめた。					
93	ポスター・図録等の印刷・刊行	通年	富沢遺跡保存館	733	733	市指定管理料 733
	4回分の企画展ポスター・チラシを作成した。特別企画展は実施できなかったため*、刊行を予定していた展示図録は無料配布用パンフレットとして刊行した。					
94	資料の収集・保管	通年	富沢遺跡保存館	0	0	
	仙台市教育委員会で所蔵している旧石器時代に関する資料等を借用・保管し、適切な管理を行い館の活動に活用した。					
95	遺構の各種分析調査	通年	富沢遺跡保存館	380	380	市指定管理料 380
	保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的とし、各種分析調査を行う。併せて保存処理検討会を開催した。					
96	次年度事業準備・その他	通年 (一部中止)	富沢遺跡保存館	63	63	市指定管理料 63
	令和3年度の特別企画展に向けた資料調査や出展交渉、及びその他の企画展・体験教室等についての資料調査等を行った。また開館から24年を経過し、常設展の内容が最新の研究成果を反映していないところが増えてきており、展示内容や方法を検討するために有識者を招き指導・助言をいただく場を設ける予定であったが、実施できなかった*。					
②地域との連携事業						
97	運営懇談会	中止 (通年)	富沢遺跡保存館	0	0	
	富沢遺跡保存館の運営に理解と協力を得るために事業を紹介したり、館の運営や事業に活かすことを目的に意見やニーズの聴取を行ったりするための場を設け、近隣の町内会・小中学校・商業施設・市民センター等を対象に、懇談会を行う予定であったが、実施できなかった*。					

(3) 仙台市縄文の森広場管理運営・調査研究・普及啓発事業

98	仙台市縄文の森広場 管理運営	通年	縄文の森広場	55,864	55,864	市指定管理料 55,864
	縄文時代に関連する体験活動や展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習を支援する場として、縄文の森広場を維持管理した。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、仙台市のガイドラインに基づき全館臨時休館するとともに、再開後は体験活動を申込制や人数制限するなど感染症対策を講じて、管理運営にあたった*。					年間入館者:8,491人
99	仙台市縄文の森広場 常設展示	通年	縄文の森広場	7,760	7,760	市指定管理料 7,760
	施設内展示及び野外展示を適正な状態に保つ。特に、屋外展示の復元住居や植栽は、縄文時代の雰囲気を伝える重要な展示品として、適切な維持管理や環境整備を行った。					
100	コーナー展示	通年	縄文の森広場	68	68	市指定管理料 68
	宮城県内を含む東北地方の縄文時代の遺跡から発見された遺構と遺物を通して、縄文時代の人々の暮らしについて紹介した。 ①「東北の縄文遺跡－岩手県山田町浜川目沢田Ⅰ遺跡」(3/14～10/18) ②「東北の縄文遺跡－宮城県石巻市中沢遺跡」(12/1～2/11) ③「東北の縄文遺跡－福島県南相馬市中才遺跡」(3/13～6/13)					観覧者: ①2,499人(4/1～) ②488人 ③44人(～3/31)
101	縄文まつり	10/24, 1/31 (5/9, 8/9中止)	縄文の森広場	387	387	市指定管理料 387
	季節ごとに開催する自由参加イベント。予定の規模を縮小して、その日だけの体験コーナーや音楽演奏などを実施した。全4回のうち2回は中止*。					参加者: 176人 10/24 13人 1/31 163人 5/9, 8/9 中止
102	普及啓発事業	通年	縄文の森広場	861	861	市指定管理料 861
	①団体予約:学校等の各種団体対象の展示解説や縄文体験を実施した。 ②随時体験:来館者を対象とし、様々な縄文体験メニューを提供した(土日のみ・事前申込制*)。 ③体験講座:「週末体験講座(一部中止*)」「夏休み子ども考古学教室」「発掘調査体験教室」など、各種体験教室を実施した。 ④特別イベント:夏・秋・冬・春の長期休業期間にあわせた、誰でも楽しめる体験イベント等を実施した(春は中止*)。					
103	縄文講座	3/13	縄文の森広場	337	337	市指定管理料 337
	縄文時代研究について各分野の第一人者による講演会。公募で会場30人、オンライン100人対象*。 「仙台発掘最前線!」講師:仙台市文化財課(三浦一樹・妹尾一樹・木村恒)					参加者:75人 (会場29人、オンライン46人)
104	ボランティア育成事業	通年	縄文の森広場	10	10	市指定管理料 10
	当館でのボランティア活動を新たに希望される方の養成と、既にボランティアとして登録されている方のスキルアップを兼ねて行った。各種体験活動の補助、展示についてのより分かりやすい説明などのための研修事業。					
①学校との連携事業						
105	学校教育との連携	10月～12月 (8月中止)	縄文の森広場	5	5	市指定管理料 5
	学校教育との連携促進を目的として実施する事業。8月には、市内小・中学校の教職員を対象とした、当館の概要説明や体験活動事業を周知するために、教職員利用研修会及び機関研修を予定していたが中止*。10月～11月には、学芸員資格取得を目指す大学生が、必要単位を取得するために必要な博物館実務実習の受入れを実施。10月～12月には、近隣中学校より職場体験の生徒を受け入れた。					機関研修:中止 博物館実務実習:4人(3校) 職場体験:11人(2校)
106	利用学習事業	通年	縄文の森広場	2,355	2,355	市指定管理料 2,355
	小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に利用する利用学習を実施した。当館利用推進を目的として、授業の実践校に交通費の補助を行い、学校側との綿密な連携のもとに、館内外の見学や各種の体験学習を行う。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から本館・地底の森ミュージアムの同事業と連携して行う。令和2年度は13校が参加。					参加者:1,055人(13校)
②地域との連携事業						
107	運営懇談会	通年	縄文の森広場	1	1	市指定管理料 1
	縄文の森広場利用者や地域の方々等に出席いただき、当館の活動を紹介し理解を得ること、またその意見やニーズを把握し、当館の運営に役立てることを目的とし、地域と連携した今後の事業を模索する場とした。					参加者:16人
108	野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつける『じょうもん』」	通年	縄文の森広場 太白山自然観察の森 太白小学校	9	9	市指定管理料 9
	野外展示「縄文の森」の利活用の幅をひろげるために、近隣住民・小学校・地域の団体などと連携を図りながら、専門家の指導を受けて植生環境の充実を図る事業。令和2年度は太白小学校1年生を対象として、太白山に自生するクリの種子を採集し育てる事業を行った。					参加者:74人

③調査研究事業						
109	体験活動メニューの調査研究	通年	縄文の森広場	0	0	
	各種研究成果や実験考古学の成果を生かして、新たな縄文体験メニューやイベントの企画・開発、学校教育との連携事業の推進に取り組んだ。					
110	復元住居の経年変化及び維持管理に関する研究調査	通年	縄文の森広場	0	0	
	公開している復元住居の経年変化を把握し、当時の生活実態に合わせた効果的な維持管理の方法を研究する。復元住居の現状確認と今後の維持管理法の方向性を検討した。また、土葺き竪穴住居の上屋構造に関する調査などを行った。また、2/19に兵庫県立考古博物館が主催で開催した「古代体験フォーラム」で竪穴住居の維持管理について報告を行った。					
111	ボランティアスタッフとの共同調査研究	通年	縄文の森広場	0	0	
	当館が実施している各種事業の内容深化、あるいは新規イベントの開発を目的として、ボランティアスタッフと共同で調査研究活動を実施した。					
112	次年度コーナー展資料調査	通年	縄文の森広場	5	5	市指定管理料 5
	令和3年度に予定している、展示の内容及び展示と連動した体験活動を検討するために、資料調査を実施した。					
113	資料の収集・保管事業	通年	縄文の森広場	0	0	
	仙台市で所蔵している山田上ノ台遺跡及び縄文時代に関する資料を借用保管し、適切な管理を行った。また、事業活動の充実を図るため、関連する図書資料等の収集を行った。					

(4) 仙台文学館管理運営・調査研究・普及啓発事業

114	仙台文学館 管理運営	通年	仙台文学館	184,548	184,548	市指定管理料 184,548
	文学に関する展示などを実施するとともに、文学活動の場や資料の提供を行い、学校教育活動や生涯学習活動を支援することを目的に、入館者の利便に供する施設の管理運営を行った。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、仙台市のガイドラインに基づき全館臨時休館し、再開後は、利用者にマスク着用等感染対策を促す案内掲示したほか、サーマルカメラの導入、館内各所に消毒液の配置、飛沫防止パネルの設置、情報コーナーの交流スペースの席数半減などの対策を行った*。					年間入館者:37,334人 収益事業を含む
115	仙台文学館 常設展示	通年	仙台文学館	0	0	
	明治から現代の仙台・宮城ゆかりの文学をテーマを設けて紹介する。特集コーナーでは、展示替えを行い新しい情報の提供を行った。					

①特別展・企画展

116	企画展「作家・編集者 佐左木俊郎～農村と都市 昭和モダンの中で」	5/19～8/2	仙台文学館	718	718	市指定管理料 718
	生誕120年の節目を迎えた宮城ゆかりの作家・編集者佐左木俊郎を取り上げた。大正末から昭和初期にかけて、作家・編集者として時代を切り開いた、佐左木俊郎の活動を、交友のあった作家とのやり取りや、活躍した時代背景なども取り上げながら紹介した。仙台の漫画家・スズキスズヒロ氏のイラストを採用したことで、これまで当館を利用したことのない層にもアピールすることができ、地元ゆかりの作家について広く知っていただく機会となった。なお、4/25～6/28の実施を予定していたが、臨時休館のため会期を変更した*。					観覧者:737人
117	夏休み子ども文学館えほんのひろば みちのく妖怪ツアー	延期 (7/18～8/23)	仙台文学館	0	0	
	宮城県在住の作家・佐々木ひとみ、野泉マヤ、堀米薫の各氏による児童書『みちのく妖怪ツアー』の展示企画。全6話を6つのコーナーに分けてそれぞれ紹介するとともに、妖怪登場シーンを再現したフォトスポットを設け、物語を体感できるようにする計画だったが、翌年に延期した*。代わりに2階スペースで「背守り」小パネル展や、1階エントランスロビーで「疫病退散！ みんなで作ろう妖怪絵巻」といった自宅にいても参加できる企画を開催した。					
118	特別展「アンノーマル 安野モヨコ展」	10/4～12/13	仙台文学館	5,286	5,286	市指定管理料 5,286
	「働きマン」「ハッピー・マニア」「さくらん」など、女性の本音や悩み、ファッション、時代の空気、美意識などすべてを盛り込み、深い共感と高揚をもたらす作品を描く安野モヨコの作品展を開催した。1995年に連載がスタートした「ハッピー・マニア」から現在も執筆中の「オチビサン」や「鼻下長紳士回顧録」まで、代表作の扉絵や名シーンの原画約500点を紹介。展示資料の撮影を可能としたため、来館者がSNS等で発信する動きが生まれ、若い世代の来館が目立った。					観覧者:2,934人
119	特別展「ふつうがえらい！ エッセイスト 佐野洋子展」	1/16～3/21	仙台文学館	4,405	4,405	市指定管理料 4,405
	40年以上も愛読される『100万回生きたねこ』をはじめとする数々の絵本、そして鋭い観察眼と独特のユーモアで読者の心をわしづかみにする多くのエッセイを残した佐野洋子。本展では、エッセイストとしての面に焦点をあて、ことばに着目した展示を開催。展示を通して、佐野洋子のことばに興味を抱いた方が多かったとみられ、通常より図録や関連書籍が多く売れた。					観覧者:2,030人
120	新春ロビー展「100万人の年賀状展」	1/10～2/13	仙台文学館	170	170	市指定管理料 170
	文学館あての年賀状を広く一般から募集した。ゆかりの文学者から寄せられた年賀状や、各地のゆるキャラからの年賀状なども展示した。好評のため会期を延長した。					観覧者:3,332人

121	資料の収集・保管	通年	仙台文学館	3,055	3,055	市指定管理料 3,055
	宮城・仙台ゆかりの文学者・文学作品に関する資料の収集を行った。収蔵した資料の適切な整理とコンピュータを活用した資料管理を行い、必要に応じて資料の修復などを行った。					
122	次年度事業準備・その他	通年	仙台文学館	2,863	2,863	市指定管理料 2,863
	令和3年春の特別展の準備を進めた。					

5.定款第4条第6号の事業(文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					備考

(単位;千円)

(1)仙台市青年文化センター管理運営事業

123	仙台市青年文化センター管理運営	通年	日立システムズホール仙台	300,566	300,566	市指定管理料 300,566
	平成29年度から5年間の指定管理を受け、その4年目となる当年度は次のとおり施設運営を行った。 (1)利用者が安心・安全に利用できるよう、保守点検等をはじめとする各種点検業務を強化するとともに、火災や震災、外部からの脅威に対してより実践的に対処できる防災体制について、不断の見直しを行いながら取り組んだ。 (2)利用者と積極的なコミュニケーションをとり、利用に関する的確なアドバイスをを行い利用者の増加を図った。 (3)施設利用や芸術文化に関するタイムリーな情報を広く提供するなど広報を強化した。 (4)市民の文化活動の拠点施設及び劇場法にうたう劇場・音楽堂としての役割を担うことを認識し、地域資源を有効に活用するなど工夫しながら各種事業を展開し、より市民に親しまれる施設づくりを進めた。 (5)利用者アンケートの実施や意見箱返答コーナーの設置も継続するなど意見集約を積極的にを行いながら業務改善に努めた。 (6)令和2年10月から約1か年に亘って全館閉館して行う大規模改修についてはこれまで培った管理運営の知識と経験をいかしながら、施設設置者とともに漏れのない準備を引き続き行った。また、工事体制に対し、進捗にあわせた連携・協力などを積極的に行うなど、よりよい施設づくりに努めた。 (7)楽都仙台や劇都仙台的拠点施設として事業の運営サポートを行った。 (8)新型コロナウイルス感染拡大防止のため、仙台市のガイドラインに基づき全館臨時休館するとともに、施設内消毒の強化や施設利用者及び主催者向け感染防止対策の案内作成・配布、サーマルカメラ・パーテーションの一般貸し出しなどを行った*。					年間利用者: 24,961人 収益事業を含む

(2)仙台市泉文化創造センター管理運営事業

124	仙台市泉文化創造センター管理運営	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	133,289	133,289	市指定管理料 133,289
	「仙台市市民文化事業団・東北共立・石井ビル管理グループ」として令和2年度から5年間の指定管理を受けた期間の1年目として、次のとおり施設運営を行った。 (1)市民の芸術文化の振興と育成の場を提供し、自主的な文化活動の拠点となるよう、市民が利用しやすい開かれた施設運営を行った。 (2)施設利用や公演実施に関する相談に応じ、的確な情報や助言を提供するなど、利用者への支援を充実させた。 (3)適切で丁寧な接客業務を行うと共に、施設貸出しに際してはニーズに応じて弾力的な取扱いも検討し、更にアンケートや「お客様の声」などを参考に、利用者の立場に立った施設運営を行った。 (4)施設の安全な維持管理に努め、各種災害に備えた防災体制をより整備し、省エネルギー、バリアフリーへの取り組みを引き続き推進した。 (5)施設を活性化させる事業として、新春いずみ寄席、コンサートシリーズ「イズミノオト」、泉中央地区プレイガイド事業、市民との協働によるロビーイベント及びボランティアによるピアノ弾き込み事業を行った。 (6)新型コロナウイルス感染拡大防止のため、仙台市のガイドラインに基づき全館臨時休館するとともに、館内、備品等の消毒の徹底のほか、利用者へ感染防止対策実施の働きかけや、手指消毒液の設置、施設内機械換気の強化、サーマルカメラや受付用アクリルパーテーション等の備品貸出を行った*。					年間利用者: 70,581人 収益事業を含む

(3)せんだいメディアテーク管理運営事業

125	せんだいメディアテーク 管理運営	通年	メディアテーク	585,486	585,486	市指定管理料 585,486
	市民文化のシンボルでもある定禅寺通に面した立地と、世界に誇る建築デザインという施設の特徴を最大限に生かし、人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場として、また美術や映像文化などを中心とする芸術文化活動の拠点として、施設・設備の適切な管理運営に努めるとともに、計画的に保全を図った。メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援を行った。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供を行うほか、展示や上映のための施設の提供を行った。新しい生活様式への変容も考慮した上で、事業としては協働事業を引き続き発展させ、オンライン上での交流など市民参加型事業の新たな試みを積極的に進めた。また、博物館施設など地域の知的資源を活用するため、博物館連携ネットワーク「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」事務局業務を仙台市教育委員会と共同で担うとともに、学校との連携を図り次世代の育成に取り組んだ。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、仙台市のガイドラインに基づき全館臨時休館するとともに、ピクトグラムを用いた感染拡大防止のサインや施設の用途に合わせたガイドライン(確認書)を作成し、会場利用者と相互に確認をすることで感染防止に努めた。また、感染リスクの低下を目的とし、サーマルカメラの設置や接触頻度の高い室内や物品への抗菌・抗ウイルスコーティングなどの対策を行った*。					年間利用者: 74,451人 収益事業を含む

126	せんだいメディアテーク ライブラリー運営・美術映像文化推進事業	通年	メディアテーク	6,771	6,771	市指定管理料6,771
	映像音響ライブラリー、視聴覚教材ライブラリー、視聴覚障害者情報ライブラリーにおける映像音響資料及びデジタル資料等の収集・整理・提供事業を推進し、市民の情報検索及び閲覧の環境を提供した。また、せんだいメディアテークの事業、および「3がつ11にちをわすれないためにセンター」において集められた震災関連の映像などを含むさまざまな協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、smtコレクションとして公開し、映像音響ライブラリーと視聴覚教材ライブラリーを通じて提供した。					配架数:422点 smtコレクション:75タイトル

公益財団法人仙台市市民文化事業団
中期経営計画（2018-2020年度）
及び令和2（2020）年度 事業報告の概要

1 中期経営計画案の全体像

本計画案は、2017年1月に策定した「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」にある5つの基本方針に基づき、2018年度から3ヵ年にわたって取り組む事業のねらいや方向性とともに、その実現を支える経営強化目標、収支計画等によって構成されています。

加えて3年目である令和2（2020）年度の具体的な事業計画について、概要を示しました。

定款 第3条 目的

この法人は、文化芸術の振興、郷土の歴史の継承及び生涯学習の支援に関する事業を行い、
もって魅力ある市民の文化創造と豊かな市民生活の実現に寄与することを目的とする。

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」

5つの基本方針

<方針その1>

資料の収集と活用

ミュージアム施設の管理・運営／常設展・企画展等の開催

<方針その2>

市民の文化活動への支援

活動者への支援・助成・協力／鑑賞機会の提供

<方針その3>

さまざまな人材の育成

講座・ワークショップ・市民協働型事業の実施／
ボランティア組織の運営

<方針その4>

[楽都][劇都]の成長促進

音楽・舞台芸術の振興と創造・発信型事業の推進／
劇場・音楽堂の活性化

<方針その5>

地域文化資源の活用

文化による地域共生社会の振興／新たな地域文化の創造

経営の強化

●人材の確保・育成

●経営基盤の強化

2 「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」基本方針と事業の概要

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」より

<方針その1> 資料の収集と活用 *その2にも該当

歴史や伝統、多様な文化芸術に関する資料収集・調査研究とその成果の活用により、市民の暮らしに息づく文化の保存・伝承および総合的な文化の振興を図り、まちの魅力向上に活かします。

① 資料収集や調査研究を通じて、文化を育み活用する基盤の整備に寄与し、市民文化の振興に努めます

② 調査研究等で得られた成果を活用し、さまざまな手法でこれを市民に提供していくことで、市民が学びを楽しむきっかけをつくるとともに、「ミュージアム都市」として、継続的な学びを支援します

③ 長い年月の中で、災害や技術の進歩、ライフスタイルの転換などにより、変化し、喪失してしまう地域の記録や記憶を保存し、大切な文化資源としての活用を図ります

2018-2020年の方向性

2019年度の「仙台市歴史民俗資料館開館40周年」「仙台文学館開館20周年」を節目と捉え、両施設の周年事業を次の方針で計画・実施・検証するなど、今後の各ミュージアム運営に資する新しい業務に着手していきます。

- ・蓄積した資料や成果を国内外に向けて積極的に情報発信します
- ・施設の存在をさらに広く知ってもらうために、多彩な事業を実施し、新規の来場者を開拓します
- ・現在の施設運営課題を絞り込み、その解決のための新たな方策や事業を試行しながら、その効果を検証します

令和2（2020）年度 事業の概要

これまでの資料収集・調査研究の成果を基に、時期に応じたテーマで展示事業を企画・実施し、各ミュージアムの魅力を強く発信しました。また、関連事業等とあわせて様々な方向から興味関心を持っていただく工夫を凝らし、新規来場者やリピーター獲得に努めました。また、次年度以降の展示企画のため、新たな展示手法の開発にも取り組みました。

（１）ミュージアム施設の管理運営・資料収集・調査研究

- ア 仙台市歴史民俗資料館 管理運営[64, 609]（市指定管理料／No. 75, 82, 83）
- イ 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営[95, 768]（市指定管理料／No. 85, 92-96）
- ウ 仙台市縄文の森広場 管理運営[56, 256]（市指定管理料／No. 98, 101, 109-113）
- エ 仙台市縄文の森広場 展示手法の開発・導入[696]（自主財源／No. 20）
- オ 仙台文学館 管理運営[187, 603]（市指定管理料／No. 114, 121）

（２）常設展・企画展等の開催

- ア 仙台市歴史民俗資料館 企画展等[3, 815]（市指定管理料／No. 76-79）
- イ 仙台市富沢遺跡保存館 企画展等[13, 940]（市指定管理料／No. 86-90）
- ウ 仙台市縄文の森広場 企画展等[7, 828]（市指定管理料／No. 99, 100）
- エ 仙台文学館 企画展等[13, 442]（市指定管理料／No. 115-120, 122）

主な展示事業

No. 79「仙台市歴史民俗資料館企画展『仙台の災害～天災は忘れたころに～』」（11月14日～3月25日）

東日本大震災から10年を迎えるにあたり、東北地方を全般に見通しながら、旧仙台藩領を中心にして江戸時代から現代にいたるさまざまな災害に対する備えや対策、信仰などについて紹介した。（観覧者数:4,977人）

No. 88「地底の森ミュージアム企画展『縄文あにまる～つくる・つかう～』」（8月4日～10月18日）

宮城県内の遺跡から出土した、動物形土製品や動物モチーフの資料、動物の骨角を材料として作られた道具類を展示し、縄文時代の人々が動物をどのように捉え、どのような意味を込めて土製品等を作っていたのかを、関連資料の写真パネルとともに紹介した。（観覧者数:5,720人）

No. 118「仙台文学館特別展『アンノーマル 安野モヨコ展』」（10月4日～12月13日）

「働きマン」「ハッピー・マニア」「さくらん」など、女性の本音や悩み、ファッション、時代の空気、美意識などすべてを盛り込み、深い共感と高揚をもたらす作品を描く安野モヨコの原画約500点を紹介した。展示資料の撮影を可能としたため、来館者がSNS等で発信する動きが生まれ、若い世代の来館が目立った。（観覧者数:2,934人）

新たな展示手法の開発・導入への取組

No. 20「仙台市縄文の森広場 展示手法の開発・導入」

「リビングヒストリー」について事例収集などの調査を行うとともに、将来的にイベントや展示に活用可能なデータを作成するため、ハイスペックPCをリースし、縄文土器の「3次元計測」を行った。

＜方針その２＞ 市民の文化活動への支援

市民が行う自主的な学びや活動の場を提供し、さまざまな文化活動を支援することで、年代やライフステージに関わらず誰もが心豊かな市民生活を送り、地域が活性化することをめざします。

- ① 市民や市民団体が行う自主的な学びや活動を支援するとともに、市民が多様な文化に触れる機会を提供し、心豊かな暮らしと地域の持続的な発展に寄与することをめざします
- ② 多様な文化に関わる情報に誰もがアクセスできるよう、さまざまな手法による発信に努めます
- ③ 震災からの復興や地域づくりにおいて文化が果たしてきた役割を検証し、次代につないでいきます
- ④ 多様な年代・ライフステージに応じた学びと活動の機会を確保し、文化への理解と支援の拡大をめざします
- ⑤ 施設の利用者がいつも安全に安心して利用できる管理運営を行うとともに、さらなる魅力の向上を図ります

2018-2020年の方向性

当財団が果たしてきた市民活動支援の役割を維持継続していくとともに、既存の制度や仕組みの段階的な充実を図ります。加えて鑑賞者向け事業やサービスを、時代の変化を意識して再編成します。

- ・ 2020年度のせんだいメディアテークの開館20周年を節目と捉え、次の10年の方向性の検討をすすめ、周年事業を計画・実施します
- ・ 鑑賞者に向けた各種広報及び「市民文化事業団友の会」、制度改正後10年余りが経過する「支援・助成・協力事業」の仕組み等を改めて検証し、それぞれ有効度の向上に取り組みます
- ・ ホール系施設の劇場としての機能充実を目指し、より良い運営のための外部評価の充実や、文化庁等外部財源のさらなる獲得に努めながら、事業の充実を図ります

令和2（2020）年度 事業の概要

貸出施設のある指定管理施設の管理運営や、「支援・助成・協力事業」の継続を通じて、多様な文化活動への支援を行いました。当年度は、特に新型コロナウイルス感染症の影響を受けている団体・個人に向けた助成事業を新たに実施することで、文化芸術活動の維持・継続の支援に注力しました。

加えて、市民ニーズに応える鑑賞公演を幅広く実施するほか、開館20周年を迎えたせんだいメディアテークのこれまでの取り組みを紹介する展示を行いました。

（１）活動者への支援・助成・協力

- ア 仙台市青年文化センター管理運営[300, 566]（市指定管理料／No. 123）
- イ 仙台市泉文化創造センター管理運営[133, 289]（市指定管理料／No. 124）
- ウ せんだい演劇工房10-BOX・能-BOX管理運営[25, 639]（市補助金・使用料等／No. 56）＊その4にも該当
- エ せんだいメディアテーク管理運営・生涯学習支援事業[592, 257]（市指定管理料／No. 125, 126）
＊その3・その5にも該当
- オ 支援・助成・協力事業[15, 915]（市補助金／No. 2）＊その3・その5にも該当
- カ 多様なメディアを活用した文化芸術創造事業[63, 239]（市補助金／追加1）
- キ 実演芸術の公演会場費助成事業[73, 582]（市補助金／追加2）

（２）鑑賞機会の提供

- ア 仙台文学館普及啓発事業[289]（市補助金／No. 61, 62）
- イ せんだいメディアテーク経常事業[37, 295]（市補助金・市負担金・刊行物販売等／No. 70-74）＊その5にも該当
- ウ 舞台芸術振興課鑑賞事業[16, 414]（市負担金・文化庁助成金・自主財源・入場料等／No. 9）＊その4にも該当
- エ 共催事業／第57回宮城県芸術祭等[109]（自主財源／No. 8）＊その4にも該当
- オ 仙台市青年文化センター活性化事業[297]（自主財源／No. 10）＊その4にも該当
- カ 仙台市泉文化創造センター活性化事業＜寄席・ロビーコンサート・イズミノオト等＞[5, 064]
（自主財源・入場料等／No. 7, 11）＊その4にも該当
- キ 仙台市富沢遺跡保存館活性化事業＜狩人登場！等＞[2, 519]（自主財源・参加料等／No. 14, 16, 17, 25）
- ク 仙台市縄文の森広場活性化事業＜縄文まつり復元プロジェクト等＞[1, 518]（自主財源／No. 18, 19, 25）
- ケ せんだいメディアテーク活性化事業＜ホスピタリティ向上事業等＞[290]（自主財源／No. 24, 25）
- コ 文化情報広報事業[4, 961]（市補助金・自主財源／No. 44, 45）
- サ 「市民文化事業団友の会」事業[2, 983]（自主財源／No. 46）

活動者への支援・助成・協力

No. 追加1「多様なメディアを活用した文化芸術創造支援事業」（6月中旬～10月31日）
新型コロナウイルス感染症の影響で、活動の縮小や停止を余儀なくされている地域の文化芸術関係者の活動継続を支援するため、多様なメディアを活用した文化芸術創造事業に対する助成を行った。（交付件数:172件）

No. 追加2「実演芸術の公演会場費助成事業」（9月1日～3月31日）
新型コロナウイルス感染症の影響で、屋内施設でのイベント開催時の収容率50%以内という制限により開催が困難となっている文化芸術公演の再開を促進するため、主催者に対し、会場使用料の一部を助成した。（交付件数:711件）

主な鑑賞事業

No. 9「劇場・音楽堂等機能強化推進事業 こまつ座公演『人間合格』」（8月1日）
仙台文学館初代館長・井上ひさしが座付作家をつとめたこまつ座の「人間合格」を、井上が信頼した鶴山仁の演出、新たなキャストで上演した。コロナ禍の中開催する事業団初のホール事業だったが、早い時期にほぼ完売となった。（入場者:247人）

せんだいメディアテーク開館20周年記念事業

No. 1「ラウンジ展示『せんだいメディアテーク・クロノロジー 2001-2021』」（1月8日～3月23日）
メディアテークのこれまでの取り組みを俯瞰視し、今後の展開を構想しやすくすることを目的に、建設期から現在までの様々な出来事を、写真、映像、資料などでたどり、クロノロジー（年表）として展示した。（入場者:10,599人）

<方針その3> さまざまな人材の育成

多様な文化活動に関わる人材のすそ野を広げ、子どもたちをはじめとする次世代や新たな担い手の育成に努め、文化に関わる市民力の向上をめざします。

- ① 子どもたちが優れた文化や地域の歴史に触れる機会を増やし、次代の文化の担い手としての成長を応援します
- ② 各種ボランティアやサポーターの活躍機会の拡大に努め、互いに交流・連携しながらスキルアップをめざす取り組みを応援します
- ③ 多様な文化の担い手となる人材を育成し、新たな文化の創造や地域文化の発展・継承をめざします
- ④ 地域に受け継がれてきた伝統や民俗芸能の継承を支援し、鑑賞の機会を増やして理解を広げ、地域への誇りや愛着を深めていきます

2018-2020年の方向性

市民の多様な興味関心に応えて、芸術文化に触れる機会を広く提供する講座・イベントから、表現活動のスキルアップを目的としたワークショップまで、豊かな文化活動の担い手育成のために多層的なプログラムを実施します。

- ・ 子どもから大人まで、文化を体験できる多様な事業を行います。
- ・ 地元のアーティスト、学芸員、指導者など向けに、受講者とのコミュニケーション方法や派遣先の地域や学校をつなぐコーディネート手法など、ワークショップを支える人材の育成を図ります。
- ・ 文化施設や大規模な文化事業と一緒に運営するボランティアの方々とは、ノウハウの情報共有を行っていきます。

令和2（2020）年度 事業の概要

新型コロナウイルスの影響が長期化するなか、参加人数などの制限を設けながら、若年層をはじめ、幅広い世代を対象にした講座やワークショップを実施し、文化の担い手の育成を図りました。加えて、国際音楽コンクールの運営にあたるコンクールボランティアの活動サポートやミュージアム施設を支えるボランティア事業を継続して行いました。

（１）講座・ワークショップの実施

- ア 舞台芸術振興課人材育成事業[16, 414]（市負担金・文化庁助成金・自主財源・入場料等／No. 9）
*その5にも該当
- イ せんだい演劇工房10-BOX 舞台芸術人材育成事業[4, 001]
（市補助金・自主財源・受講料等／No. 27, 29, 30, 34）*その4にも該当
- ウ 能-BOX 古典芸能人材育成事業[695]（市補助金・受講料／No. 31）*その4にも該当
- エ 東京藝術大学音楽学部早期育成プロジェクト[443]（自主財源／No. 41）*その4にも該当
- オ 仙台文学館 学芸員出前講座・仙台文学館ゼミナール等各種文学講座[1, 120]
（市補助金・自主財源・受講料／No. 63, 65）
- カ 仙台市歴史民俗資料館 子ども講座・たんけん資料館等各種講座、ワークショップ[98]
（市指定管理料／No. 80）
- キ 仙台市富沢遺跡保存館 考古学講座・たのしい地底の森教室等各種講座・市民文化財研究員
[995]（市指定管理料／No. 91）
- ク 仙台市縄文の森広場 発掘調査体験教室・夏休み子ども考古学教室等各種講座
[1, 198]（市指定管理料／No. 102, 103）
- ケ 文化庁芸術家派遣事業（実行委員会参画／文化庁委託料／No. 40）

（２）ボランティア組織の運営

- ア 仙台国際音楽コンクール・仙台クラシックフェスティバル／ボランティア事業
[585]（市負担金等／No. 52）*その4にも該当
- イ 仙台文学館友の会支援事業（市補助金／No. 68）
- ウ 仙台市歴史民俗資料館サポーター養成事業[98]（市指定管理料／No. 80）
- エ 仙台市富沢遺跡保存館ボランティア事業[995]（市指定管理料／No. 91）
- オ 仙台市縄文の森広場ボランティア事業[10]（市指定管理料／No. 104）

主な講座・ワークショップ

No. 27「舞台スタッフ・ラボ」（8月・2月）

オープン講座では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策や体験談等を共有するとともに、今後の劇場の利用方法について会場全体で考える場を設けた。また、本講座では、舞台監督・音響・照明部門の基礎コースと、模擬公演で実際にスタッフワークを体験する発展コースを開催し、舞台芸術や表現の楽しさと奥深さに触れる機会を提供した。（参加者：オープン講座41人、本講座24人、模擬公演入場者120人）

No. 40「文化庁芸術家派遣事業」（10月～2月）

「仙台市文化芸術による子供の育成事業実行委員会」が受託し、学校や保育所等で子どもたちに文化活動や鑑賞機会を提供する事業。新型コロナウイルス感染症の影響により、多少実施件数は減少したものの、数多くの学校や保育所等で子どもたちに文化活動や鑑賞の機会を提供した。（実施会場：104件、参加者数：65,483人）

主なボランティア事業

No. 52「仙台国際音楽コンクール ボランティア」（通年）

コンサート等での活動中止や、各ミーティングの開催もオンラインでの実施や最小人数にするなど、感染症対策を講じながら活動に取り組んだ。（登録者数：200人）

No. 91「仙台市富沢遺跡保存館ボランティア事業」（通年）

来館者と接する活動は自粛したが、体験活動の準備作業など可能な活動に取り組むとともに、特別講座の実施や自主研修活動の支援を行った。（登録者数：70人）

<方針その4> [楽都][劇都]の成長促進 *その2・その3にも該当

「楽都」や「劇都」として、市民が参加し、育んできた文化をさらに成長させ、仙台の魅力として国内外に発信していきます。

- ① まちに音楽があふれ、誰もが気軽に楽しむことができる機会を拡充し、音楽を「する」「聴く」「支える」文化を育て、仙台の文化としての発信に努めます
- ② 子どもたちをはじめとする若い才能を育み、世界に羽ばたくチャンスをつくり、「楽都」の基盤を支えます
- ③ 舞台のつくり手と支え手の育成を支援するとともに、活躍の場を広げ「劇都」にふさわしい舞台芸術の振興に努めます
- ④ 多様な市民が集い、感動を共有する場である劇場等を地域における文化拠点として運営し、文化の継承・創造・発信の場として活用していきます

2018-2020年の方向性

- ・ 3年ごとに開催する「仙台国際音楽コンクール」は、2018年度に本格的な準備を行い、2019年度に第7回開催（5月～6月）、2020年度の第8回開催の概要広報まで、一連の業務を想定し、制作を進めるとともに、継続的に地域の音楽文化振興に寄与する関連事業を実施します。
- ・ 12回の継続を経て市民に深く浸透した「仙台クラシックフェスティバル」を、新規性も加味しながら引き続き開催し、音楽ファンのさらなる拡大によって「楽都仙台」の充実を図ります
- ・ “劇場法”の制定で重要度が増す「舞台芸術振興」のための諸事業を、せんだい演劇工房10-BOXとホール系施設の役割を改めて相互に明確化しながら再整備し、個々の事業の目的を明確にし、有効性を高めます
- ・ 仙台市と検討を進めている今後の舞台芸術振興のヴィジョンづくりを継続し、事業体系全体の構造を強化することから、「劇都仙台」事業の充実を図ります

令和2（2020）年度 事業の概要

楽都仙台事業では、新型コロナウイルスの影響でやむなく開催中止とした仙台クラシックフェスティバルの代替事業として「クラシックエール仙台」を実施するなど、地域の音楽振興に寄与する事業の継続に努めました。劇都事業では、「仙台舞台芸術フォーラム」における東日本大震災後に創作された作品の連続上演や関連イベント、モデル事業の実施を通じて、仙台における舞台芸術活動の基盤づくりに取り組みました。

（1）音楽の振興と創造・発信型事業の推進

- ア 仙台国際音楽コンクール運営事業[17, 499]（市負担金・刊行物販売／No. 48-54）
- イ 仙台クラシックフェスティバル2020代替事業 クラシックエール仙台
[39, 477]（市負担金・国補助金・協賛金・入場料・自主財源等／No. 5）
- ウ 仙台ジュニアオーケストラ運営事業[18, 800]（市負担金・受講料・入場料等／No. 55） *その3にも該当
- エ 市制施行記念コンサート[4, 012]（市委託料／No. 59）

（2）舞台芸術の振興と創造・発信型事業の推進

- ア せんだい演劇工房10-BOX 現代演劇鑑賞事業[6, 019]（市補助金・自主財源・入場料等／No. 28）
- イ 市民能楽講座[22]（市負担金／No. 26）
- ウ 能-BOX 施設活性化事業[695]（市補助金／No. 31）
- エ 仙台舞台芸術フォーラム[9, 379]（市負担金・入場料／No. 38） *その5にも該当

（3）劇場・音楽堂の活性化

- ア 文化庁劇場・音楽堂等機能強化推進事業[16, 414]
（市負担金・文化庁助成金・自主財源・入場料等／No. 9）

主な楽都仙台事業

No. 5「仙台クラシックフェスティバル2020代替事業 クラシックエール仙台」（10月3・4日）
45分と60分の公演時間、チケットは一般の公演と比較し手の届きやすい料金で、本格的なクラシック音楽を気軽に楽しんでもらうというせんくらのコンセプトを踏襲した公演のほか、じっくり演奏を聴いていただく2時間の公演も設けた。開催会場は日立システムズホール仙台1施設3会場に限定し2日間で15公演と規模を縮小して、安心して楽しんでもいただけるように新型コロナウイルス感染症の予防対策も徹底したうえで、多様なジャンルのクラシックコンサートを開催した。（入場者：のべ3, 439人）

主な劇都仙台事業

No. 38「仙台舞台芸術フォーラム」（6月～3月）
東日本大震災の記憶と経験をふまえ、過去・現在・未来を橋渡しする舞台芸術作品を創造・発信するとともに、人材の発掘と育成を行うプロジェクトの2年目。当年度は、震災を主題にした舞台芸術作品として、①シア・トリエ「キル兄にゃとU子さん」、②劇団うたたね.<ドット>「咆哮く私たちはもう泣かない」、③屋根裏ハイツ「とおくはちかい（reprise）」「ここは出口ではない」、④方丈の海プロジェクト2021「方丈の海」の上演、パネル展示等を行った。また、令和3年に向けて柴幸男新作公演の準備を行った。（参加者：のべ5, 300人）
No. 30「せんだい短編戯曲賞事業」
平成24年度から実施している短編戯曲を対象とする戯曲賞。全国公募により次代の演劇を担う人材を発掘し、冊子発行による作品の上演機会の創出、若い世代の作家の作品発表の場を提供する。今回開催の第7回では全国31都道府県から277作の応募があり、大賞作品2作を選出し冊子を発行した。

<方針その5> 地域文化資源の活用

多様な分野や担い手との連携と交流を進め、地域や文化資源の新たな魅力発掘に努めるとともに、文化の力を地域の活性化や課題の解決に活かします。

- ① 自然や歴史、伝統など、地域に息づき、育まれてきた文化の土壌を発展させ、その魅力を高める活動を支援します
- ② さまざまな文化活動を介して他者への理解を促進し、多様な価値観と生き方を認め合う地域社会をめざします
- ③ 地域の課題や魅力の発見・発掘に努め、多様な担い手と連携して新たな地域文化を育む取り組みを支援します

2018-2020年の方向性

地域共生社会に対応した文化活動のあり方を模索し、地域や社会課題に対応した文化事業を実践していきます。

・施設来場者、文化芸術団体、施設近隣の方々など、さまざまな立場の方々と文化施設や文化事業のあり方について対話を行い、地域における幅広いニーズや意見を把握します。

・それらの知見をもとに、自然・環境、子育て、障害のある方の情報アクセス、震災の記憶・記録を残し伝え学ぶ環境などに対応した事業を模索し、各文化施設の特徴や資源を活かして実施していきます。

・特に、地域に甚大な被害をもたらした東日本大震災については、2021年3月には10年目を迎えることから、震災から11年目以降の次世代に向けて、文化活動を通じた震災の経験や記憶の継承について、持続可能なあり方を模索していきます。

・仙台市文化プログラムやせんだい・アート・ノード・プロジェクトでは、社会の課題を見据え、地域の資源や人材を生かした文化事業を行います。

令和2（2020）年度 事業の概要

仙台市から委託を受けてせんだい3.11メモリアル交流館を運営し、様々な企画展や事業を開催するとともに、震災10年を期にさらなる施設機能の強化に取り組みました。5年目となる「アート・ノード・プロジェクト」、最終年度を迎える東京オリンピック・パラリンピックに向けた「仙台市文化プログラム」の実施にあたっては、地域や社会の課題を意識しながら、地域の文化資源を活かした事業を行いました。

（１）地域共生社会を見据えた事業

- ア 利用者や地域との運営懇談会[1]（市指定管理料／No. 107）
- イ 仙台市富沢遺跡保存館 地域交流促進事業[263]（自主財源／No. 15）
- ウ 仙台市縄文の森広場 野外展示「縄文の森」の多目的活用[9]（市指定管理料／No. 108）

（２）震災・復興に文化を通して向き合う事業

- ア せんだい3.11メモリアル交流館運営・各種事業[62, 651]（市受託料／No. 57, 58）
- イ 仙台舞台芸術フォーラム[9, 379]（市負担金・入場料／No. 38） *その4にも該当

（３）地域・社会の課題を見据えた文化事業 *その3にも該当

- ア 「仙台市文化プログラム」公募・共催事業[5, 875]（市負担金／No. 37）
- イ 舞台芸術振興課人材育成事業[16, 414]（市負担金・文化庁助成金・自主財源・入場料等／No. 9）

（４）新たな地域文化創造にむけた事業 *その2にも該当

- ア せんだい・アート・ノード・プロジェクト[21, 616]（市補助金／No. 70）

No. 57「せんだい3.11メモリアル交流館運営」（通年）

年3回の企画展のほか、オリジナルグッズの製作、沿岸部の風土や文化、地域で活動する人々を紹介するツアーやワークショップ等を実施するとともに、積極的に市民・団体・組織等と協働することで、様々な来訪者が訪れ集う場として親しまれる運営に努めた。
また、震災10年企画として、ハンドブック『海辺のふるさとー仙台市東部沿岸地域の歴史と記憶』の制作・発行に取り組んだ。（年間来場者数:25,058人）

No. 37「仙台市文化プログラム事業」（通年）

オリンピック・パラリンピックを契機として、地域の文化芸術分野における多様な資源を生かした事業を推進し、新たな成果を生み出すこと、そしてその取り組みや成果が一過性にとどまることなくオリンピック・パラリンピック終了後も継続的に波及効果をもたらすことを目的に実施。令和2年度は、「障害のある人たちの文化芸術活動支援・推進」「地域の文化芸術資源活用」をテーマにした2事業を、事業実施者と仙台市、事業団の3者共催事業として実施した。（参加者:のべ1,276人）

No. 70「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」（通年）

「川俣正／仙台インプログレス」「藤浩志／ワケあり雑がみ部」「東北リサーチとアートセンター」等、オンライン等のメディアを積極的に活用しながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合うアートプロジェクトを継続して展開することで、まちの魅力と人々の活気を引き出し、文化都市仙台を発信した。
（総参加者：4,904人）

3. 経営の強化に向けた取り組み

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」より

●人材の確保・育成

(1) 職員の専門性と能力の開発

- ア 他都市や他機関を含む研修機会の充実
- イ 専門性の高い人材の確保
- ウ 中長期的な育成の見地に立った異動・交流のしくみの検討

(2) 市民協働の推進

- ア 市民協働のさまざまな場面での推進
- イ ボランティアやサポーターの活動機会の拡大・ネットワーク構築

2018-2020年の方向性

- ・ 仙台市及び他機関の研修機会を積極的に活用します
- ・ 独自に企画する研修の分野や機会を拡大し、内容の充実を図ります
- ・ 職員個々の適性をもとに、キャリアアップやO J Tの観点を重視しながら、育成面でも有効な人事を行い、組織力の維持向上を図ります
- ・ 今後増加する職員の定年退職に備え、中長期の再雇用計画について検討を進めます
- ・ 各事業の実施を通して、外部のさまざまな方々と協働することから、仙台の文化芸術振興に欠かせない担い手の育成を進めます

令和2（2020）年度の取り組み

- (1) 横断的人材育成事業の実施
- (2) 政策研究大学院大学研修事業への参加
- (3) 固有職員再雇用計画の作成・実施
- (4) 助成事業等、市民活動支援事業の充実に向けた調査・リニューアルの検討

●経営基盤の強化

(1) 運営基盤の強化

- ア 補助金助成金の活用／多様な資金調達手段の開発
- イ 新たな顧客やリピーターの開発／友の会制度の見直し

(2) 組織の強化

- ア 外部団体や企業との連携の促進
- イ 他都市や他機関との連携の促進
- ウ 組織内での情報共有の徹底
- エ チャレンジする組織風土への変革

(3) 安心・安全の確保

- ア リスク予防やBCP策定等による安心安全体制の構築
- イ 運営施設の案内やサイン表示のわかりやすさの向上
- ウ 運営施設の老朽度合等の把握／こまめな修繕

(4) 情報発信の強化

- ア ホームページの見直し
- イ SNS等の活用

2018-2020年の方向性

- ・ 基本財産及び退職給付引当資産の運用先の拡大を視野に、規程の見直しを含めて検討を進めます
- ・ 寄付取得の方法やその広報手法の調査・開発を行います
- ・ 外部資金獲得のための情報収集・共有を、組織内で徹底します
- ・ 「市民文化事業団友の会」制度の見直しを行い、文化鑑賞会としてのサービス・アップを図ります
- ・ ホームページの改善にむけ、調査・検討を継続し、システム改修を行います
- ・ 施設の指定管理を維持していくため、総合的な経営基盤の強化を施設の運營業務においても生かしていくとともに、次期申請に向けた新しい取り組みを開発します

令和2（2020）年度の取り組み

- (1) 全国の文化振興財団の寄付取得実績や広報の状況の調査
- (2) 文化庁・地域創造等による補助金制度の調査強化・活用拡大
- (3) リニューアルした新ホームページによる情報発信の強化
- (4) オンライン（Zoom等）で参加可能な講座・ワークショップ・会議等の開催